

■ 5. 更新案意見交換会と街歩きワークショップ

①趣旨と全体の流れ

1月8日、9日に開催した「■ 3. 住民ワークショップ」による住民の意見を集約する形として、この「更新案意見交換会と街歩きワークショップ」を設定した。すでに、本プロジェクトに最初から関わり、1月の住民ワークショップでファシリテーターを務めたサラール氏とアラール氏に、実際にワークショップで発せられた住民の意見を図面上にあらわしたデザイン・コンセプトを依頼してあった。二人は、スーク・シラーハで長らく保全活動が続ける建築家である、前者はアズハル大学建築学部、後者はメヌーフィヤ大学工学部の教授を勤めている。依頼内容は、アラール氏には、地域としての未来像、特にスーク・シラーハのコンサベーションの方針の提示を、サラール氏にはスーク・シラーハで実際に携わったプロジェクトを含め、住民ワークショップの題材とした6つの歴史的建造物の活用とそのリノベーション案についての提案を求めた。



本ワークショップを計画したことには、いくつかの理由がある。まず、本プロジェクトの目的が歴史都市保全における住民参加の推進にあるために、上記両名に依頼した住民参加を基盤としたデザイン・コンセプトを実際に住民がどのように感じ、実際にまちあるきして現場を見ることを知ることが重要であると考えたからである。こうした経験は、住民自身にとって遺産保全を考慮に入れたまちづくりを体感し、提案をかけ離れたものではなく自らの意見の反映として捉えられる。

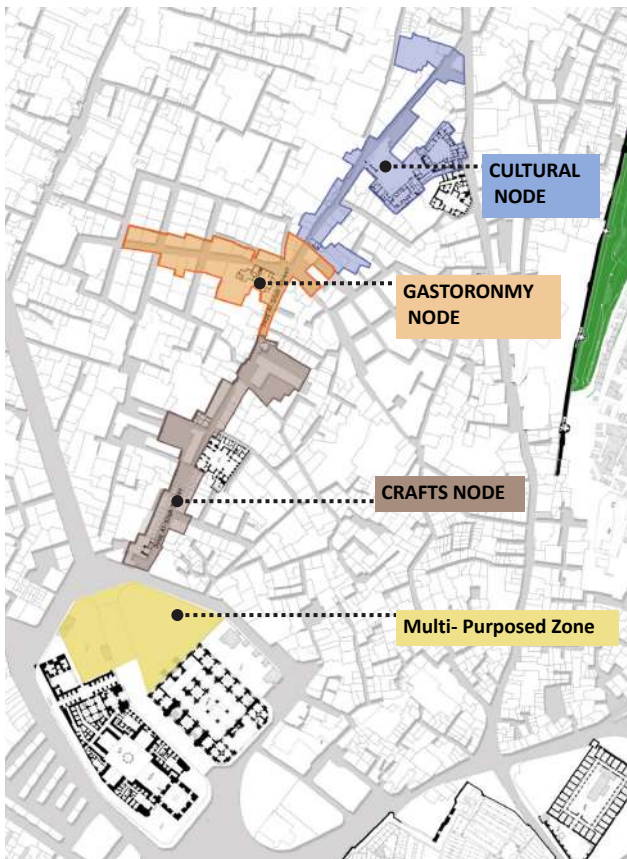
さらにもう一つの理由として、「■ 1. 事業計画 ①(3)世界遺産・歴史都市カイロ」で述べたように、カイロ旧市街の保全には、エジプト行政のさまざまな部門が関与している。また「同 ①(2)カイロ旧市街保全・・・」で指摘したような、海外の様々な団体が保存修復活動을続けており、歴史遺産を巻き込んだ社会啓発を行う地元の NGO も数多い。しかしながら、多くの場合において一対一関係で事業が進み、多様なステークホルダーが場を共有する機会が限られている。こうした指摘は、さまざまな関係者が口を揃えていうことで、中には90年代後半から2000年代にかけてはそうした場が存在したという意見もあった。このような経緯から、遺産保全に関する情報の疎通を図り、お互いに協力し合う場所が必要であることを実感していた。今回は、ユネスコ、ワールド・モニュメンツ・ファンド、観光考古省と組織

としての参加は限られていたが、こうした機会を増やしていくことは、旧市街カイロの保全上の問題点解決の一つの緒となるであろう。

加えて、エジプトでは行政側と住民という関係が、行政側が主体で住民はその意見に従うという図式が根強く、行政側も住民の意見を取り入れる方策を未だ見出せていない状況にある。日本のように行政側を公共サービスの一つとして考え、もう少し気楽に自分の意見を伝えられる場が必要であることも、今回のワークショップ設定の理由である。

なお、参加者に関しては、国立都市景観調和機構をはじめ、いくつかのステークホルダーとしての機構に招待状を発送してあった。しかしながらエジプトの休日に当たる金曜の開催ということもあり、当日になってから不参加の連絡が相次いだ。反省点としては、何らかの機関を代表する参加者に関しては、講演や発言を依頼するなど、ワークショップ参加の必要性を最初から確約しておくことが重要である。また、公の機関としての参加者については、金曜日という休日は望ましくなかったのかもしれない。住民に関しては、あまり多くの住民が集まってもらいたいと思い、男女ともに5名ずつを当初は考え、事前のワークショップに参加した住民の中から、5名ずつを招待した。当日になって男性は招待した5名だけであったが、女性は12名の参加があり、関心の高さを物語っている。なお、今回は住民に対して男性と女性の双方を招待したが、席順は自由にしていたにもかかわらず、男性と女性が部屋を半分に分けるような形で座った点は、興味深かった。しかしながら、質疑応答の際にも、女性も男性の前で自分の意見を強調する場面も見られ、意見交換についての支障はなかった。

ワークショップ開催にあたり、筆者からこのプロジェクトの概要と、その成果物の紹介、プログラムを説明した。



続いてアラー氏からダルブ・アフマル地域におけるスーク・シラーハのビジョンという発表が行われた。詳細に関しては、そのプレゼンテーションを掲載する。住民の6つの建物の活用希望案を土台に、スーク・シラーハ入口近くのスルタン・ハサンとリファーイーモスク前の広場を多目的ゾーンとし、通りを南から工芸ノード、中央を西に伸びる食文化ノード、北の文化ノードと大きく分ける提案で、それぞれのゾーンで見込まれる収入を提示し、年齢性別に分けて、住民自ら支払う費用と助成金という経済的側面をも指摘する提案であった。提案の特徴は、単に6つの歴史的建造物に注目するのではなく、通りの両側に広がる空間をも視野に入れたものであった。

工芸ゾーンでは、ウィカーラ・ラブアをブティックホテルや工房、あるいは工人の住まいとして改装し、ルカイヤ・ドウドウを工芸博物館、シナン・パシャを木工細工の展示場とし、現在の小学

校を工芸学校と工芸センターに改良するという大胆なものである。空地に意味を持たせ、緑化庭園、中庭、展示場、工房などに使う点は、一つに解決策になるのかもしれない。また緑化庭園だけでなく、屋上緑化を実施し、都市の快適性を維持する提案である。

食文化ゾーンでは、ハンマーム・バシュタークの再生を核として、その周囲に入浴や美容に関する施設およびその熱源から伝統的な料理を作る共同台所を設置する。スーク・シラーハと交差して東西に走る道沿いに、多様な食料品店を並べ、現在空地となっていてしまっているところを公園化するという案である。さらにはバイト・ヤカンとナーセル時代のアパートの間に女性専用伝統的喫茶店を設ける。現在トゥクトゥクなどの駐車場となっている空き地を、フード・コート、駐輪場などに積極的に使用する。また、伝統的な習慣の一つに嫁入りの際にハンマームでヘナと呼ばれる体への着色を行うことから、ウェディングセンターを設ける点も興味深い。

文化ゾーンにおいては、伝統的建造物として観光考古省に登録されているバイト・ラッザーズの崩壊中庭を映画劇場に改築すること、および大規模敷地が空地となっていて荒廃している部分と通りを介してつながる地元のコミュニティセンター（現在は機能していない）を接続させて、会議および多目的用のホールとその周囲を囲む歴史都市の広場として用いる

さまざまな可能性を盛り込んだ素晴らしいプレゼンテーションで、工芸、ガストロノミー、文化のゾーニングは、住民の意見を大きく取り込んだものである。街を動かしていくためには、たくさんの問題に対面していくことはもちろん大事だが、この提案事例にあるような。明るい未来への地域ビジョンを提示していくことは、住んでいる人々に希望を与えていけると考える。

一方で、提案事例においてモスク等の宗教建造物を扱わなかったのは、ワクフ省が開発や修復に柔軟ではないという配慮からかもしれない。しかしながら、「■ 2 検討 ①スーク・シラーハと保存案対象建物」で指摘したように、歴史的宗教建造物にもスーク・シラーハを活性化させる可能性が含まれているように感じる。加えてすでに空地となっているものの再利用は推進すべきであるが、歴史的都市組成の記録という面からはどのような処方ができるのかということも重要であろう。もう一つ、ハンマーム・バシュタークを全面再生する場合、現在居住する貧困層の人々をどのように扱うのかという点も、留意せねばならない。特に最後の問題は、現在の政府のやり方では、貧民による疲弊地区（インフォーマル居住地）を撤去し、近代ヨーロッパ風の独立アパートメントをたてて収入源とし、貧困層はカイロから遠くに出してしまうという案が提案されているために、新たな住宅地計画手法の勘案が切望される。

筆者が調査を通じて興味深かったのは、1938年の地図にある大規模敷地に対するおそらく個人規模の開発に、いわゆる袋小路の方式が使われているところがあることだ。現在は7層を超える高層の集合住宅となってしまう、住環境としてはあまり良いものではない。しかしながら、いわゆる曲折する袋小路を使っているという点は、現在の独立アパートメントとは異なる即地的な手法で、評価できるのではないだろうか。旧市街の開発に、現在カイロのインフォーマル住宅地域（サイエダ・ザイナブ、マスペロ等）で実行されているようないわゆる独立棟のアパート形式ではなく、歴史的な都市組成を保持しながら旧市街にあった住宅地を提案していく方向性を考えていく必要性を感じた。

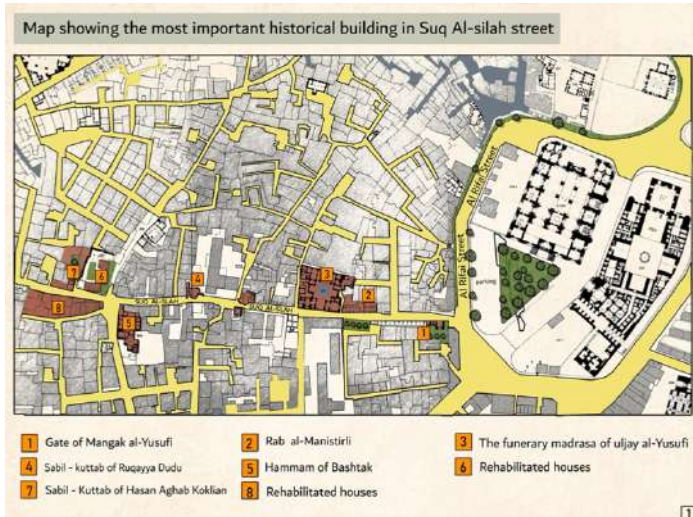
都市は多様な人々を受け入れ、その文化を育んできた。その結果としての旧市街の保全において、貧者の生きる権利、幸せな生き方という点は、歴史都市再生の一つの課題であろう。

続くサラハ氏からの提案は、今まで遂行してきた彼自身のプロジェクトを含めて、スーク・シラーハ通りの重要な建造物を指摘することから始まった。カイロのイスラーム建築の代表とも言えるスルタン・ハサン・モスクと繋げて通りを考える視点を提示し、スーク・シラーハの存在にスルタン・ハサン・モスクが重要な役割を果たすとする。

入口のマンジャク宮殿は、ビジターセンターとして、図書コーナー等も設置し、2階とその屋上からはスルタン・ハサンを見下ろすことによって、カイロ旧市街の絶景ポイントとしての可能性が強調された。

通り沿いのラブアは、2 階を修復してホテルとし、屋上には無蓋のレストランを設ける。いくつかのサビール・クッターブとハンマーム・バシュタークについて歴史的重要性が述べられた。

加えて、20 世紀初頭の 3 階建てのヨーロッパの影響を受けたアパート（下層を店舗とする）およびナーセル時代 1960 年代の 5 階建てのアパートの修復事業についても言及があった。修復事業においては住まい手の希望を優先し、水回り、室数などの改変を行ったという。



住宅に関していうと、1850 年以前にさかのぼるものはそれほど多くない。1850 年代から 1938 年まで、あるいは 1938 年から 1980 年頃に建てられた住宅でも、階高が 20m を超えないアパートはいくつかあり、その改修を通じて、歴史街区のグレードアップを図ろうとするものである。これらのアパートでは、建設ののちに、上階が増築されたものも多いが、1980 年以後の 5 階建て以上の建物に比べると、歴史街区には調和的な側面が強い。こうした建築も遺産の一つと考えて、改築し修景をは

かることは、住環境アップの一つの手法となると考えられる。また、先述した貧困層の住まいという点でも、何らかの解決法となるであろう。

サラー氏の当日の発表では、6 つの歴史的建造物のリノベーション案という点からは、少しズレていたように感じられた。とはいえ、今までの改修事例のプロセスは、まさに住民参加を実行してきたもので、今後もこのようなプロジェクトを伸ばしていくことが必要であろう。

2 名の更新案の提示後に、ユネスコカイロ事務所の高橋暁氏から「カイロ歴史地区におけるユネスコ支援事業」の発表があった。ユネスコは、カイロの無形遺産に注目して、伝統知識や技術の継承プロジェクトに取り組み、無形文化遺産記録作成に関する訓練事業の支援が行われたこと、現在「歴史地区カイロの伝統工芸の記録保存事業」を施行中であることが話された。スーク・シラーハにも伝統的木工細工があり、今後有形遺産と無形遺産の融合を図り、有形遺産としての歴史的建造物を無形遺産の保全に使えるような活用の立案が望まれる。さらに、ワールド・モニュメント・ファンドのジェフ・アレン氏から、スーフィー道場としてのタキエ・イブラヒム・グルシャーニーの修復プロジェクトの紹介が行われた。少し離れた地区の事例で、特に歴史的建物の記述、その後の修復、さらには地域への還元というステップが紹介され、住民たちも熱心に聞き入っていた。

その後、日本側も交えて質疑応答が行われ、実際のまちあるきへと出かけた。まちあるきを実行してよかったと思った点は、アラー氏とサラー氏のプレゼンテーションに出てきた未来像に対して、実態に即してその是非を考えることができるようになった点が挙げられる。建築家は図面上の空間を想定できるけれども、普通の人々はやはりその場で考えることによって、より具体性が増したのではないだろうか。それぞれの詳細については以下で詳述する。

なお、まちあるきから帰ったのち、4 時半過ぎというランチとしてはかなり遅い時間となってしまったが、バイトヤカンの各所でそれぞれにグループを作ってランチを取った。ランチの間にも、今日の話題や未来のスーク・シラーハのこと、あるいは近頃の街の問題点などが話題となっており、ワークショップ参加者の関心の高さを感じた。今後は、この関心をどのようにして、多くの人々に伝え、よりコミュニティの輪を大きくしていけるのかという点が課題となる。

・プログラム

未来のスーク・シラーハへ向けてのワーク・ショップ

2022 年 3 月 4 日（金曜日）

バイト・ヤカンにおいて

13 時半から

13:30-13:40

プロジェクトと地域の概要；歴史的価値と住民参加のワークショップ

深見奈緒子（日本学術振興会カイロ研究連絡センター）

13:40-14:00

スーク・シラーハのデザイン・コンセプト

アラール・ハブシー（メヌーフィヤ大学）

14:00-14:20

6 つの歴史的建造物の公的再利用についてのデザイン

サラール・ザキー（アズハル大学）

14:20-14:35

ユネスコ支援中の歴史的カイロにおけるプロジェクト

高橋暁（UNESCO）

14:35-14:50

ワールド・モニュメンツ・ファンドの現在のプロジェクト；イブラヒム・グルシャーニーのタキエ

ジェフ・アレン（WMF）

14:50-15:30 質疑応答

15:30-16:00 スーク・シラーハのウォーキング・ツアー

16:00-

昼食

■会議出席及びオンラインサポート：柏木、檜山

■会議出席及び通訳：ファーリス、イマード、ハーガル、ファーティマ

■日本側オンライン出席者：連、布野、岡田、磯野、荒牧、矢戸、松村

②更新案プレゼンテーション:スーク・シラーハのデザインコンセプト(アラー・ハプシー)

【SOUQ AL-SILAH VISION IN AL-DARB AL-AHMAR】

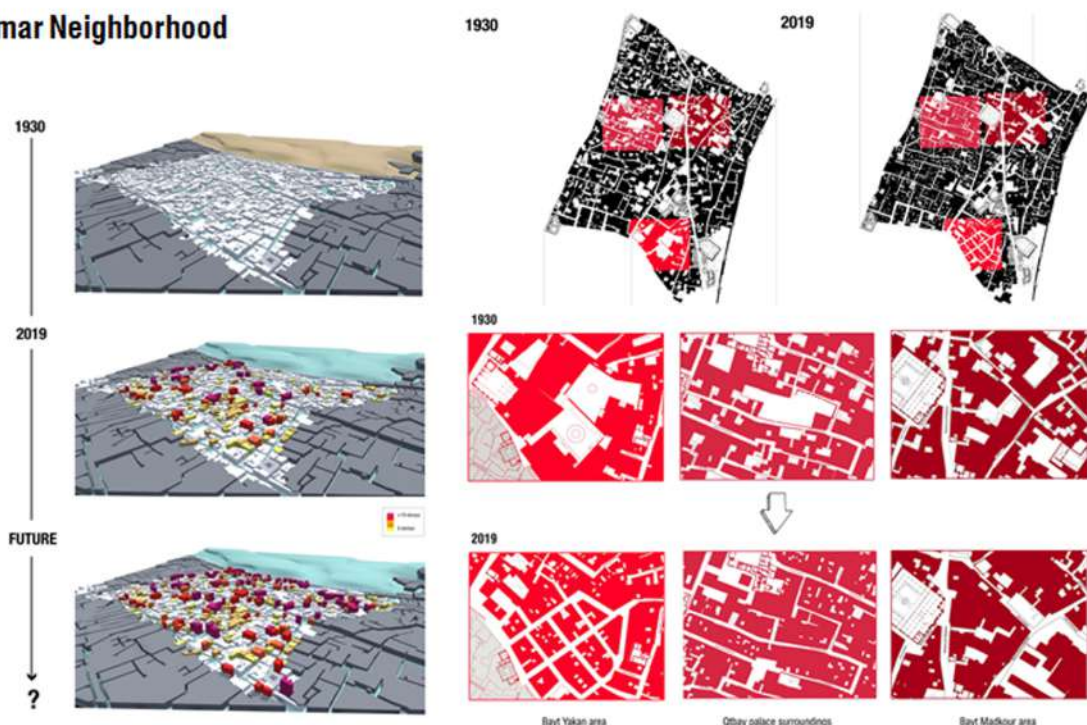
私たちは、こうしたワークショップを何度も行ってきました。みなさんお越しいただきありがとうございます。住民の方々、ユネスコの高橋さん、観光考古省のアムルさん、ありがとうございます。

今、実は、スーク・シラーハは大変重要な時期に差し掛かっています。それは、国のレベルで、開発や修復が注目されているからです。

私のテーマは「スーク・シラーハの我々の夢」についてお話しいたします。私は、実は 90 年台からスーク・シラーハに関わっています。ですので、長い間専門家として知り得た知識についてもお話しいたします。我々は、発展と問題点の双方を見てきましたので。

このスライドは、昔と今のアーバンファブリックを比較したのですが、昔は道路にマスタバがあって女性も使い、アフワ（伝統的喫茶店）のようになっていました。大きな空地が減って高い建物がたち、街が建物で窮屈になってきています。こうした事例は、街の環境悪化の一つです。我々は、何がこうした悪化の原因となったのかを考え、その原因をみんなで理解するようにしたいと思います。

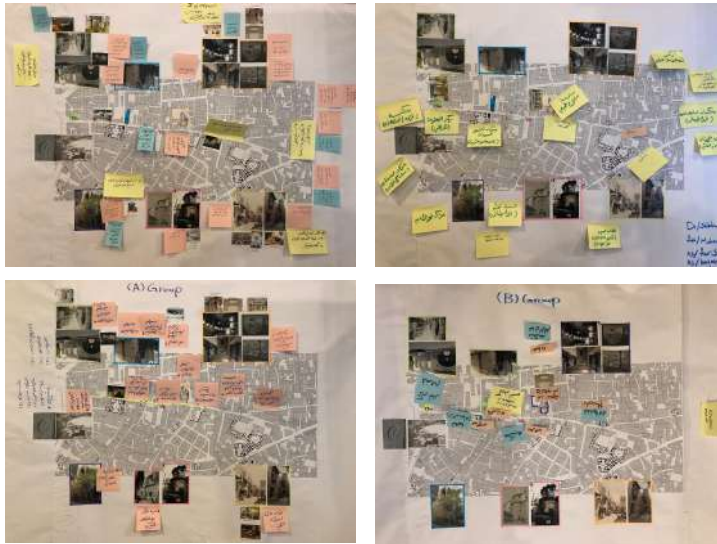
Al Darb Al-Ahmar Neighborhood



日本人グループは、エジプト人建築家たちと一緒に街を歩き回って、色々と調べました。街を小さな地区に分けて、それぞれの状態を具体的に記述しました。最新の地図で、住民の建物ごとに記述し、街の問題点や新しい現象などが取り上げられています。そして、この会場でのワークショップ、オンラインでのレクチャーなどを続けて、話し合ってきました。



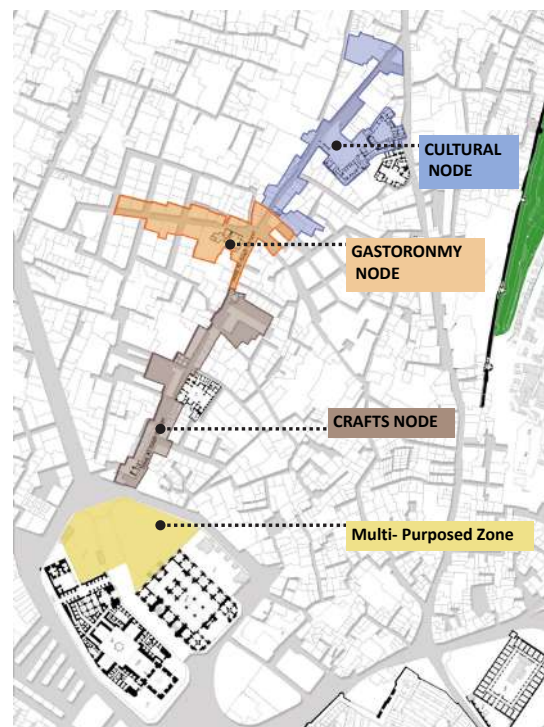
特に住民のワークショップでは、みんなの意見を集めました。この表が我々の夢で、これは私の夢だけではなく、これはスーク・シラーハのみんなの住民の夢です。全ての考えを集めて、そして表の中に入れたのです。



MONUMENT	Souq al-Silah WOMEN	Souq al-Silah MEN	Shared opinion	Japanese's
Hammam (Amir) Bashtak	- sauna and physical therapy for old peoples - upper floor to be a kid's area		- Tourists' attraction - treatment area as a public traditional hammam and a beauty salon.	- Place for special occasions like marriages, ceremonies, and religious events. - public laundries, public kitchens, wedding and funeral venues, and child support centers. - It is also important that the facility be accessible to female residents on a daily basis.
Manjak Silahdar	- public park and open theatre for children. - small restaurant selling baked goods and traditional foods. - Develop it as a touristic gate for a of Souq al Silah and information center - Restaurant on the rooftop	- School to teach crafts - Hotel with perfect view of Refaia and Mosque and Madrasa Sultan Hassan.	- information center for tourist attractions - Exhibition and bazaar of handicrafts/hand made products of the local people	a place to display and sell traditional crafts, handicrafts, foods, and sweets produced in Souq Silah.
Sabil Kuttab attached Mosque of Iqay Yusufi:	- tourist attraction - a takiyya - a hospice and center to provide food for the poor	- A small hospital, having emergency department - A prayer place like Zawiyah	Islamic center	play a role in the care of school children. I agree with the idea of turning the Sabil Kuttab into a library
Sabil Kuttab Ruqayya Dudu	- Zawiya for prayers - A small restaurant and Cafeteria	- Tourist attraction - Library	Islamic center	
Sabil Kuttab Hasan Agha Kokalion	- library having special area for kids - Cultural center for the elderly, classes for the literacy - Place for Muslim marriage.	Kuttab for kids.	- Tourist attraction - A bookstore - Prayer place	
Sabil Kuttab Mustafa Sinan attached Wilkala	- A small restaurant and Cafeteria - hotel rooms	wikala to be a small trade center for selling handmade products of the locals.	Tourist attraction	

最終的には、ビジョンを作ることが目的となるので、みなさまのさまざまな提案を成し遂げるためには、いくつかの枠に分ける必要があります。例えば、スーク・シラーハの住民の経済環境を改善するものが一つ目の枠です。そして、二つ目はダルブ・アフマルの住民に行政側が提供するサービスです。3つ目は住民に対するその他のサービス活動です。例えば障害のある子供たちのための活動なども考えられます。

Hara al-Yakaniya/Souq al-Silah Administration Unit		
Income Generating	Community Service	
	Evening Expenses	Subsidized
1) Gastronomy a) Bakery b) Restaurant c) Central Kitchen d) Kitchens at communities	1) Children a) Nursery b) Entertaining	1) Children a) Care Center b) Educational (kuttab) c) Educational (arts & crafts)
2) Crafts a) Craft Exhibition area b) Craft Museum c) Craft Market	2) Women a) Haramlik al-Hara b) Beauty Sallon	2) Women a) Wedding Center
3) Cultural a) Bookstore b) Movie theatre c) Boutique hotel to support crafts and Gastronomy	3) Men a) Administrative office for trades, and crafts and urban management	3) Men a) Fitness Center
	4) Elders a) Physical Therapy Center	4) Elders a) Literacy Center



それから、それぞれの枠の中で何をなんのために行うのか、サービスなのか経済活動なのかを分類しました。また、みなさんの意見の中には、年齢、性別の別の対象があります。子供が安全に使える場所、男性や、女性ならばと、分けて考えてみました。まず、食文化のノードでは伝統的料理やアフワなど、あるいはみなさんの意見の中に共同の台所で住民女性が作った料理を提供するなどというものもありました。次は、伝統工芸のノードです。これは男性の方が、得意な分野かもしれませんが、女性もできないわけではないですね。展示会をしたり、手作り市場などが考えられます。最後に、文化活動のノードです。みなさんの意見の中に、本屋、映画館もありました。皆様の中には覚えてる方もいるかもしれませんが、昔はこの通りにムハンマド・アリー映画館がありました。また、小規模な文化センターを作ることとも考えました。それからもう一つ、スルタン・ハサンとリファーイー・モスクを囲む広場は、その入り口に当たる多目的な空間で、そこから3つの特殊なエリア（ノード）からなるスーク・シラーハを導こうと考えました。特にこの地区は、子供に関する空間を充実させます。そこから、工芸空間、そして特に女性と関係する食文化の空間、さらには文化の空間へと至るわけです。これから、あまり詳細な活動は話せませんが、それぞれどの建物が利用できるかという点について、特に観光考古省の登録建物、あるいは修復して使った方が良い建物などが3つの活動にどう役立つのかということを紹介します。



SWOT: OPPORTUNITIES TO ADDRESS WEAKNESSES AND THREATS



Regeneration of crafts

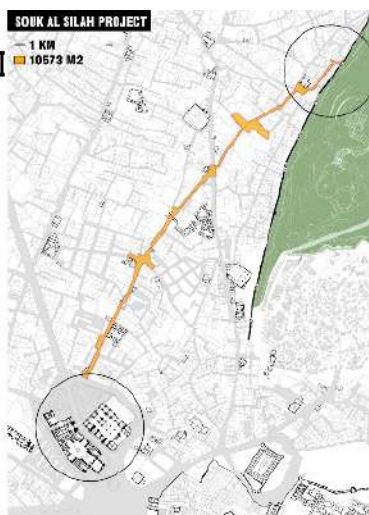


地域の住民が抱えている問題点、建物の老朽化、特に歴史的建造物の荒廃は大きいです。また、高い建物も目立ちますし、工芸の復興も必要な課題です。

AREA OVERVIEW

Connecting between 2 nodes of cultural and touristic importance

AL SULTAN HASSAN & AL RIFAI MOSQUES

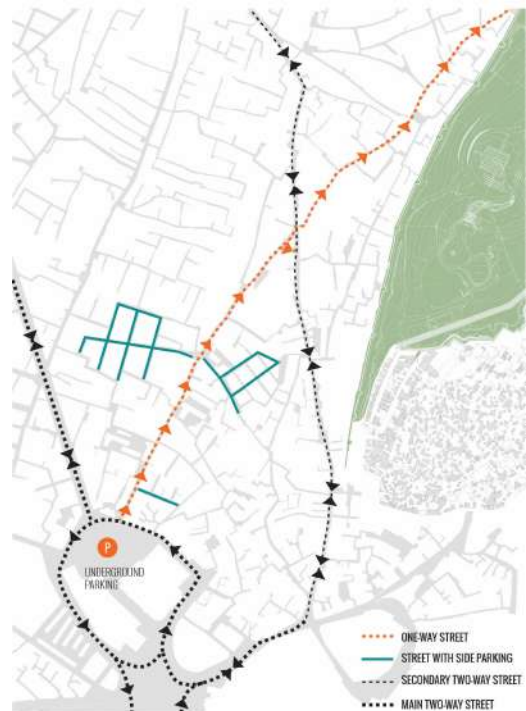
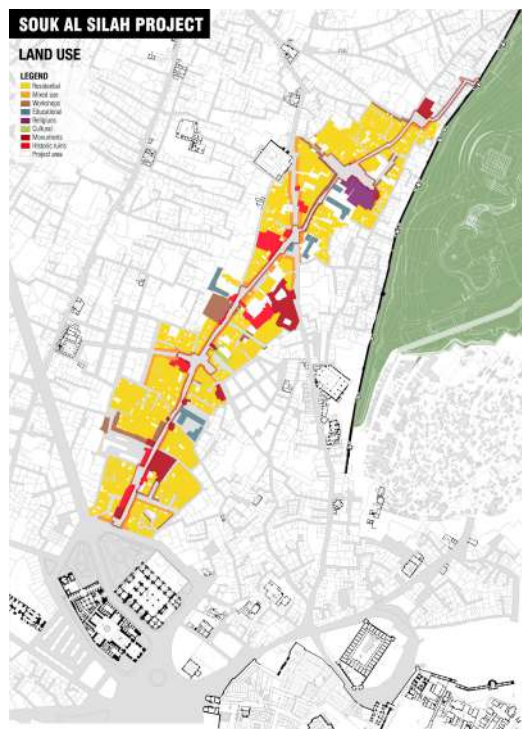


AL AZHAR PARK



とはいえスーク・シラーハはとても重要な地区です。南のスルタン・ハサンと北のアズハル公園を結びつけています。スーク・シラーハはタッバーナ通りを横切って、マフルキー通りへ伸びています。この通りには、歴史的な文化に関わる建造物も多く、観光にも資する地域であります。

ただし、交通については配慮が必要です。車を減らすこと、政府機関の何らかの移動手段を考えると、一方通行にすることなど様々な解決法が考えられます。特に歩行者を中心に置いたプランが必要です。次に3つのテーマ、伝統工芸、食文化、文化について、どの建物が利用できるかという点に移ります。

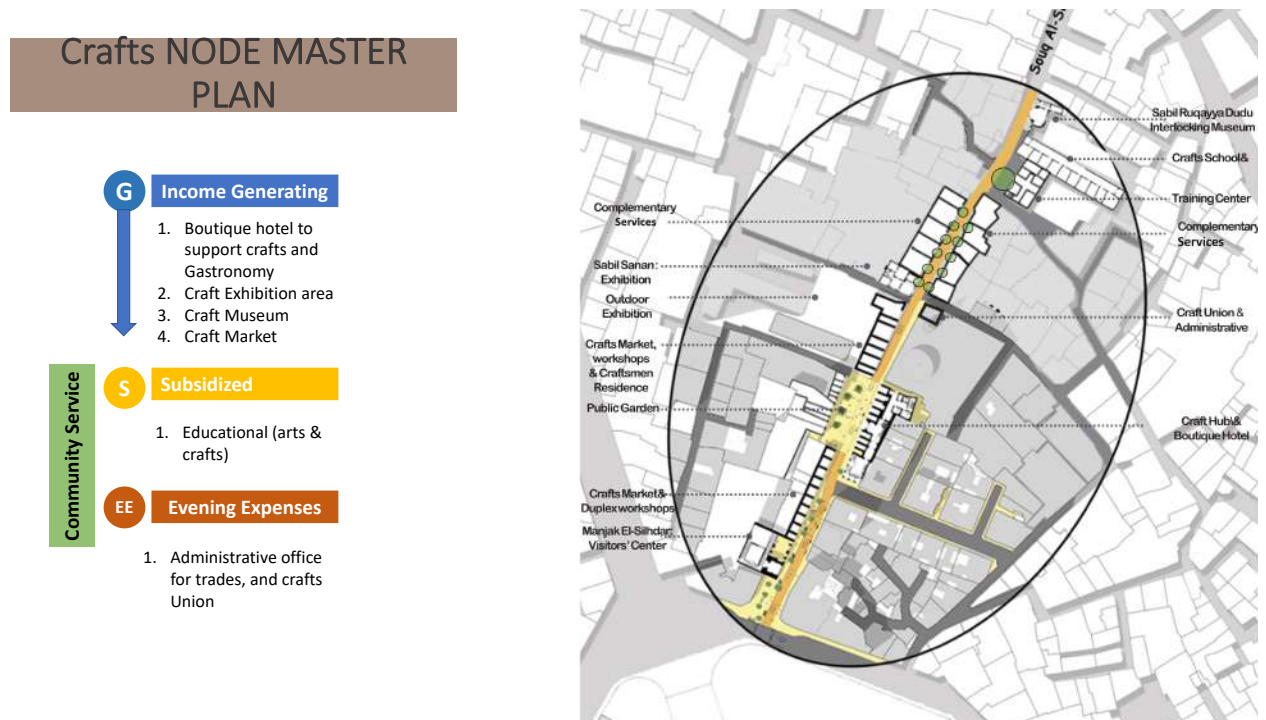


まず、工芸ノードについてです。なお、経済的側面については、青い色は住民が収入を得られるものです。黄色はファンディングや助成が必要なもの、オレンジ色は管理運営に関わるもので、後二者は行政等のコミュニティ・サービスと関連します。

Crafts NODE



先程、アズハル公園について話しましたが、例えば古くなって使われずに放置されている建物を壊して、そこを緑化して街のポケット的な公園に使うことも考えられます。マンジャク宮殿にレストランを作ったという案がありましたが、レストランは食文化ノードに入れ、バシュターク近くに共同台所を作ることを選びました。こうした中では管理運営者が必要になると思いますが、みんなで投票を行って、住民関係者の中から管理者を輩出することも重要です。ここはサビール・ルカイヤ・ドゥドゥですが、後ろに学校があります。ここを工芸学校にしたらどうかという提案です。



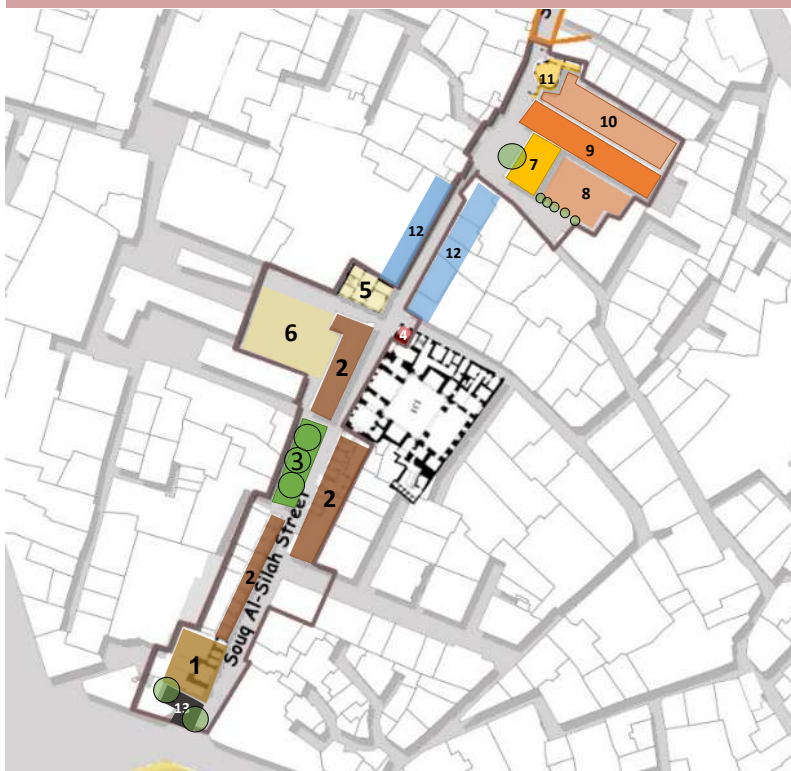
これは工芸ノードのマスタープランです。

CRAFTS NODE USED FLOOR NO. IN EACH BUILDING



次に、先程の経済の3つの段階の図ですが、建物機能を1階、2階など階層ごとに分けますが、高くても3階とします。そして、先程の経済基盤との関連も考えます。

CRAFTS NODE USED FUNCTIONS GROUND FLOOR



- 1** VISITOR CENTER IN Manjak El-Silhdar
- 2** CRAFTS WORKSHOP& SHOPS
- 2'** Duplex WORKSHOPS
- 3** PUBLIC GARDEN
- 4** CRAFTS UNINO HEADQUARTER
- 5** EXHIBITION IN Sabil Kuttab Mustafa Sinan
- 6** OUTDOOR EXHIBITION
- 7** CRAFTS TRAINING CENTER
- 8** COMMON COURTYARD: Multi purpose between Training center and crafts school
- 9** CRAFTS SCHOOL- CLASSES
- 10** SCHOOL WORKSHOP AREA
- 11** INTERLOCKING MUSEUM IN Sabil Kuttab Ruqayya Dudu
- 12** COMPLEMENTARY SERVICES: Tools sellers, mini market, pharmacy
- 13** MUNICIPAL BICYCLES PARKING

1階の使用法です。

CRAFTS NODE USED FUNCTIONS IN FIRST FLOOR



- 2** BOUTIQUE HOTEL
- 2'** DUPLEX WORKSHOPS
- 2''** CRAFTSMEN RESIDENCE
- 7** CRAFTS TRAINING CENTER
- 9** CRAFTS SCHOOL- CLASSES
- 11** INTERLOCKING MUSEUM IN Sabil Kuttab Ruqayya Dudu

2階の使用法です。

CRAFTS NODE USED FUNCTIONS IN SECOND FLOOR

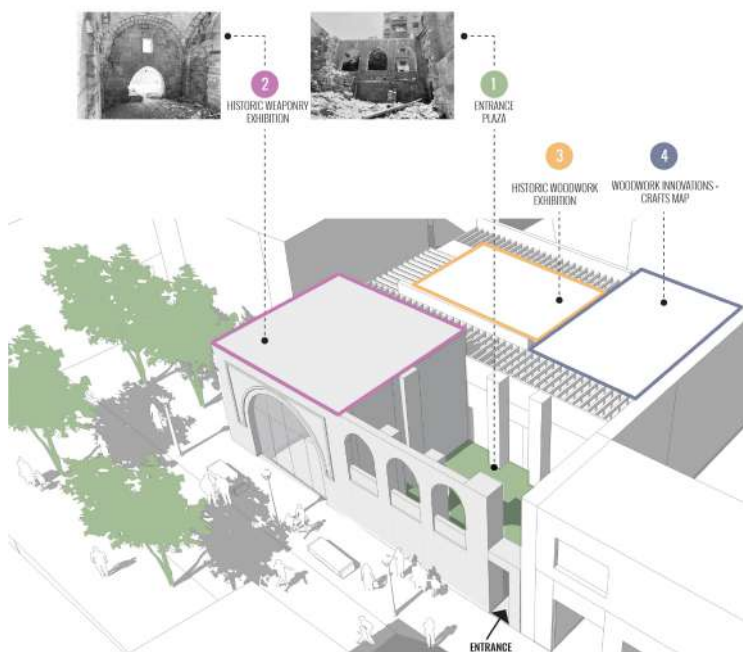
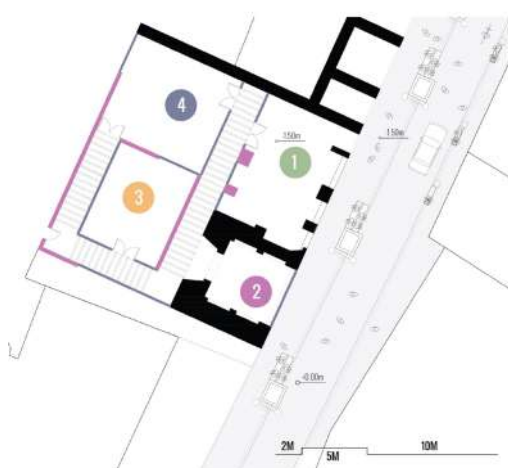


- 2 BOUTIQUE HOTEL
- 9 CRAFTS SCHOOL- CLASSES
- TOP ROOF GREENERY

そして、3階あるいは屋上ですが、屋上には緑をおいたほうが良いという案も採用しました。

MANJAK AL SALIH DAR

Visitors' Center



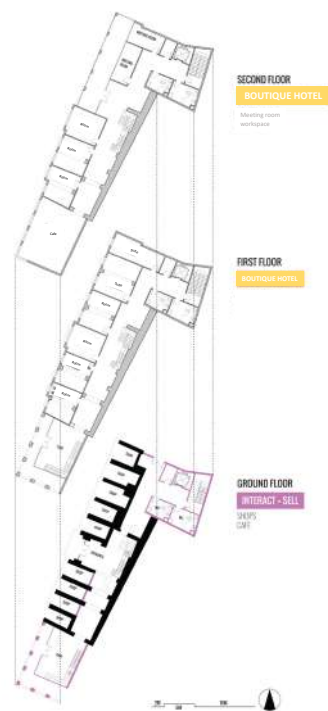
一つ一つの建物のこれからの使用法に移ります。特にマンジャク・シラフダールの場合には、古いものを修復していかに新しい機能を入れようかという提案です。

RAB' AL MANESTERLI

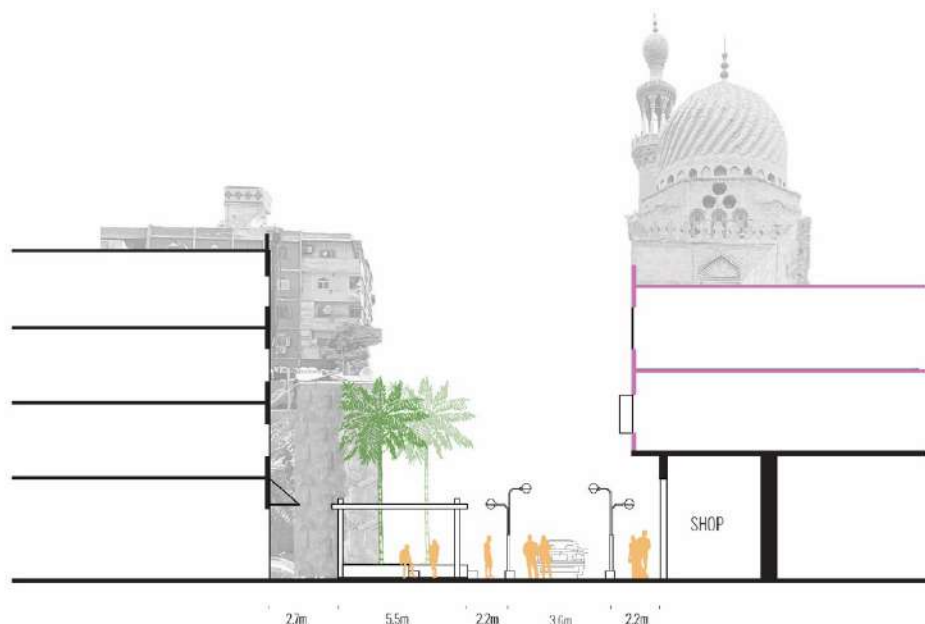
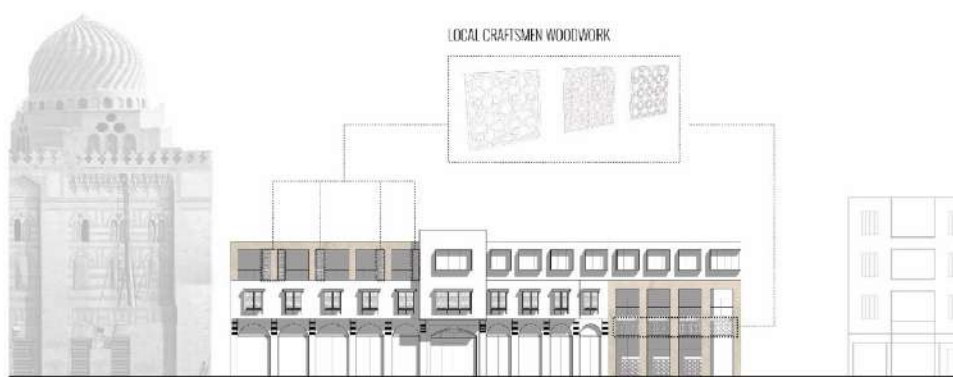
Crafts Hub

PALMS PLAZA

- SOCIAL GATHERING
FOOD CARTS
CHILDREN RECREATION
- TEMPORARY EXHIBITIONS
CAFES
- SOCIAL GATHERING
FESTIVITIES AND EVENTS



次にラブア・マネステルリですがその前には使用されていない広い空間があります。そこには現代的な新たな空間創出することを考えました。時間帯によって、フレキシブルに使えるような緑のある空間「椰子プラザ」を提案します。



この建築がどのようにして工芸のハブになっていけるのかを考えました。これが現代的なデザインを加えた後の図面です。

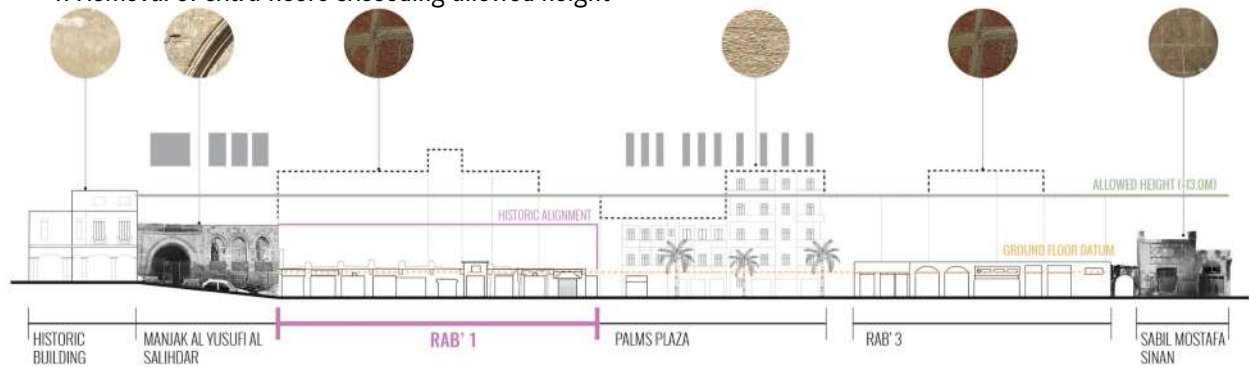
ラブアの上階はメゾネットとし、かつてのイメージに合わせてあります。かつては一室の中に階段が仕込まれて、ロフトのようになっていました。加えて、現代的なテイストで地元の木工細工の格子を入れてみました。

また、椰子プラザとの関係を断面図で示してあります。

NODES' CONNECTORS

ACTIONS:

1. Reconstruction of ruins to restore historic alignment
2. Restoration of Historic facades
3. Re-facading of modern buildings
4. Removal of extra floors exceeding allowed height



実際のファサードを見ていくと、許可された建物よりも高い建物も随分とあります。これをどのように解決していくかという点については、現在低い建物に階数を増加し、現在高い建物の階数を減少させるということを、観光考古省の方達とも話し合いました。

NODE 1 ACTIONS

BUILT FABRIC:

- 1-Restoration and rehabilitation of Manjak Al Salihdar
- 2-Restoration and reconstruction of upper floors of 3 Rab' ruins including Rab' Al Manesterli
- 3- Re-facading for 3 compatible residential buildings
- 4- Demolition of extra floors and re-facading of 2 incompatible residential buildings

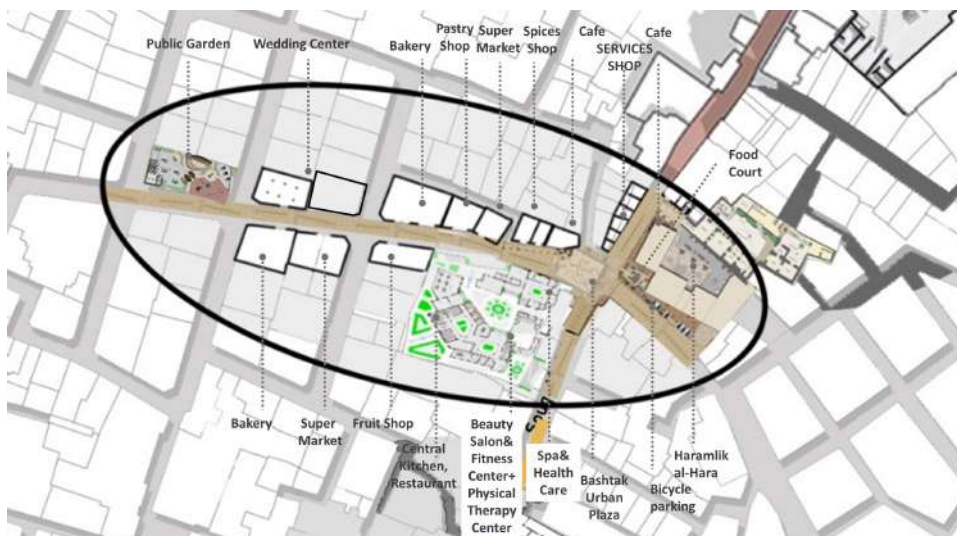
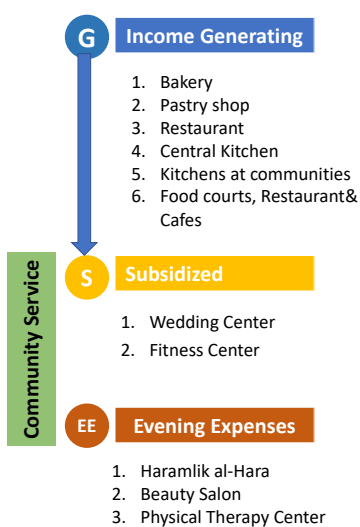
PUBLIC GARDEN:

- 1-Regeneration of plaza with softscape, hardscape and street furniture
- 2-Street Greening
- 3-Street pavement



工芸ノードでは、建造物に関しては、マンジャク・シラフダールの修復と再生、ラブア・マネステル Rab' Al Manesterli を含む 3 棟のラブア Rab' 遺構の上層階の修復と再構築、互換性を持つ 3 棟の住宅用建物のファサードの統一化、非適合住宅 2 棟の余分な床を取り壊し外装の変更を提案します。さらに公園空間については、広場の再生、街路樹の緑化、路面舗装を進めます。工芸を焦点としながら、スーク・シラーハへの入口としての機能が重要だと思います。

GASTORONMY NODE



2つ目の食文化ノードです。ハンマーム・バシュタークの角で、ガンドゥール通りとスーク・シラーハが交差します。先程と同様に3つの経済性を基盤として、共同台所、レストラン、小さな店舗などを考えます。こんな小さな店舗が何の役に立つのかと思う方もいるかもしれませんが、住民が参加して作ったり、住民も食べることができたり、地域に馴染んだ場所となることを期待します。

まず、階層分けの地図ですが、3階までです。

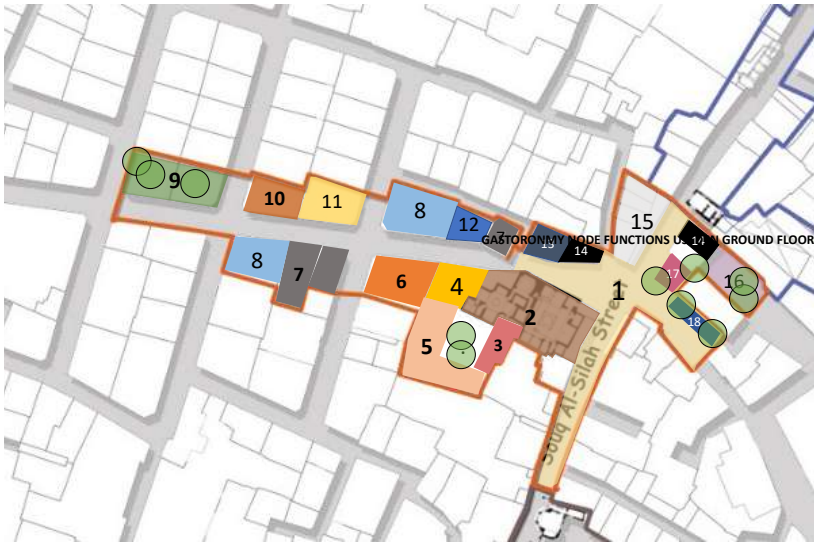
GASTORONMY NODE USED FLOOR NO. IN EACH BUILDING



次に1階ですが、みなさんの中にパン屋さんが欲しいという方もいました。すぐ近くにレストランや八百屋さんがあれば、便利です。

ハンマーム・バシュタークについては、色々な意見がありました。小さなホテル、伝統的公衆浴場、結婚する人のための美容室などもありました。みなさんの関心が高いことがわかりますし、実際にバシュタークがハンマームである頃のことを知っていたり、ハンマームを使ったりという経験がそうさせているのかもしれません。ハンマーム・バシュタークの3階には、みなさんの案から理学療法センターとしています。そして、屋上レストランも作ります。

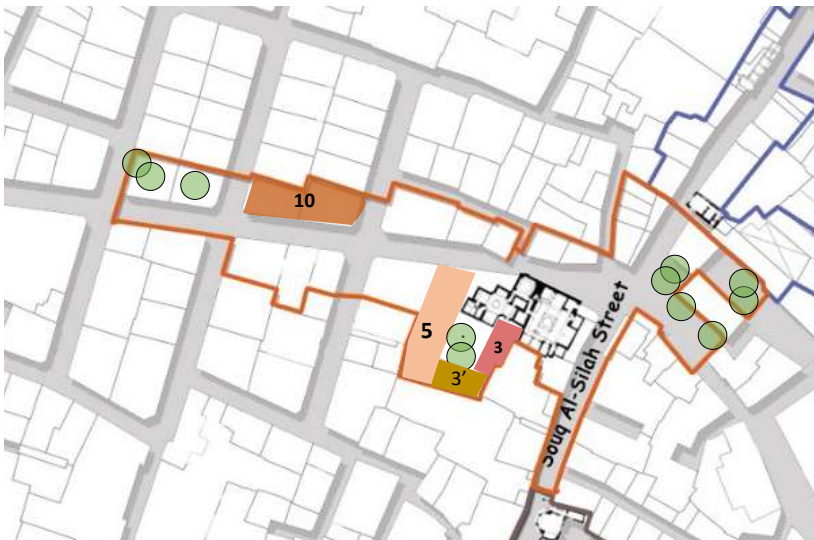
GASTORONMY NODE FUNCTIONS USED IN GROUND FLOOR



- 13 SPICES SHOP
- 14 CAFES
- 15 SERVICES SHOP
- 16 HARAMLIK AL-Hara
- 17 FOOD COURT
- 18 BICYCLES PARKING

- 1 URBAN MULTIPLE PURPOSED PLAZA
- 2 SPA AND HEALTHCARE CENTER
alternately between women and men
IN HAMAM BASHTAK
- 3 BEAUTY SALON
- 4 FURNACE ROOM FOR HAMAM
AND FOR THE CENTRAL KITCHEN
- 5 CENTRAL KITCHEN AND PREPARING
TRADITIONAL FOOD AREA
- 6 FRUIT SHOP
- 7 SUPERMARKET
- 8 BAKERY
- 9 PUBLIC GARDEN FOR
HERBALE AND FRUITING PLANTS
- 10 WEDDING CENTER
- 11 OPEN SPACE FOR OCCASIONS
IN WEDDING CENTER
- 12 PASTRY SHOP

GASTORONMY NODE FUNCTIONS USED IN FIRST FLOOR



- 3 FITNESS CENTER
- 3' PHYSICAL THERAPY CENTER
- 5 OPEN AIR RESTAURANT & SEMI
COVERED WITH SOLAR PANELS
ON PERGOLA
- 10 WEDDING CENTER

GASTORONMY NODE FUNCTIONS USED IN SECOND



- 3' PHYSICAL THERAPY CENTER
- 5 OPEN AIR RESTAURANT - Top Roof

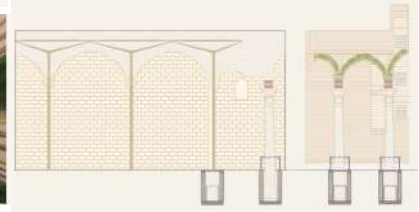
NODE ACTIONS

BUILT FABRIC:

- 1- Rehabilitation of Sabil-Kuttab Koklian
- 2- Restoration and rehabilitation of Hamam Bashtak Historical building, and another historical building in Front of Hamam Bashtak
- 3- Restoration, reconstruction and rehabilitation of upper floors of Rab'
- 4- Reconstruction of ruins including Sabil-Rab' Al Balfiya
- And the ruins of Sudun Mir Zada mosque
- 5- Re-Facading for 5 compatible residential buildings
- 5- Demolition of extra floors and re-facading of 1 incompatible residential building

OPEN PUBLIC SPACES:

- 1-Regeneration of plaza with softscape, hardscape and street furniture
- 2-Street Greening
- 3-Street pavement



このエリアでは、建造物では Sabil-Kuttab Koklian の修復と活用、ハンマーム・バシュターク自体（正面入口もちろん）の修復・再生、ラブアの上階の修復、再建、 Sabil-Rab' Al Balfiya とスドゥン・ミル・ザダ・モスク跡等の建築の復元、互換性のある 5 棟の住宅のファサード修景、非適合住宅 1 棟の余分な床を取り壊し修景する必要があると考えます。

一方、オープンな公共空間の充実も、工芸ノード同様に大きな課題です。

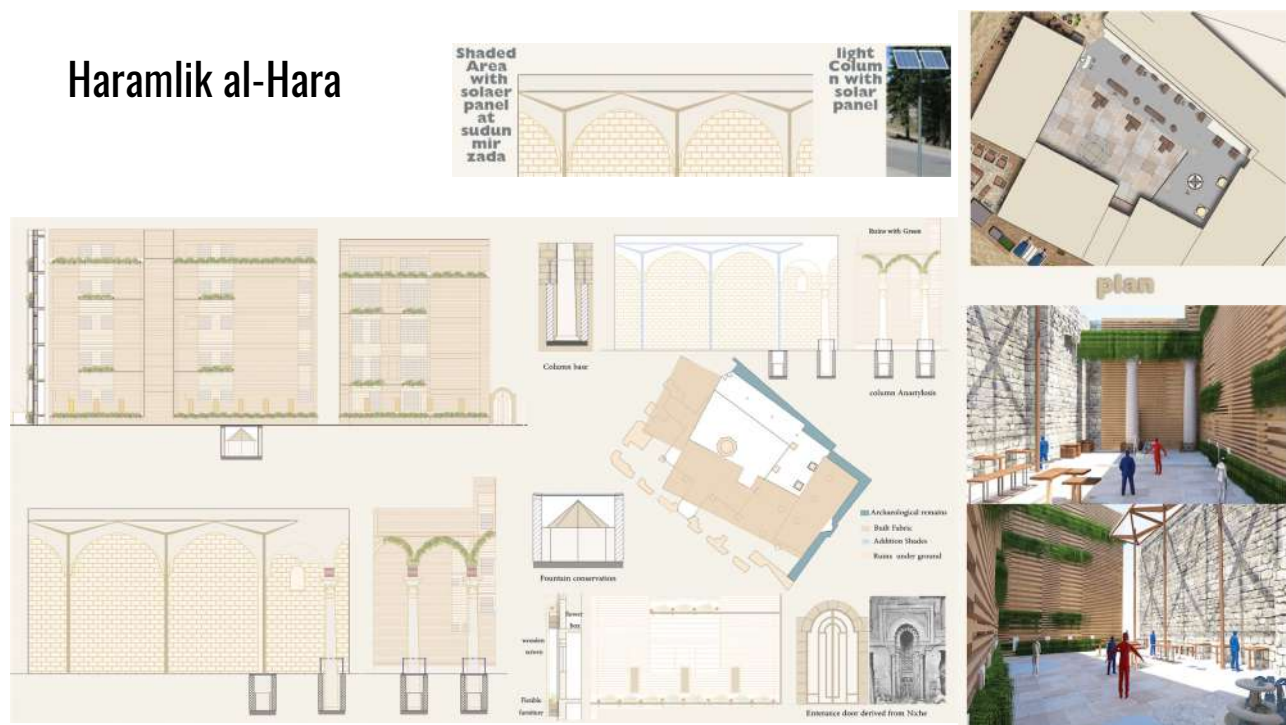
BASHTAK URBAN PLAZA

Multi Uses Urban space-Bicycle Parking- Food Court



その一つとして、ハンマーム・バシュターク前にはかなり広い広場がありますが、有効利用されていません。デザインを考えることで、より活性化を目指します。ソーラーパネル付きの駐輪場、可動性のあるベンチ、フードコートなどを提案します。

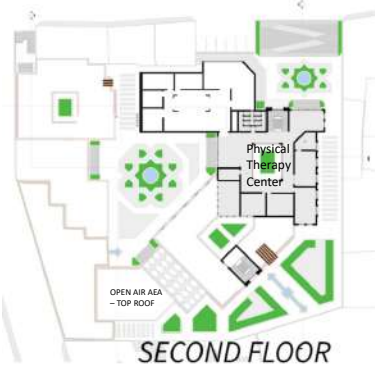
Haramlik al-Hara



ここは、バイトヤカンの隣の空地ですが、女性のための空間、例えば女性のアフワ（伝統的珈琲店）にしたらどうでしょうか？エジプトでは女性はいきませんよね。バイトヤカンをみんなが使える女性のアフワだと思っていただいても良いのですが。

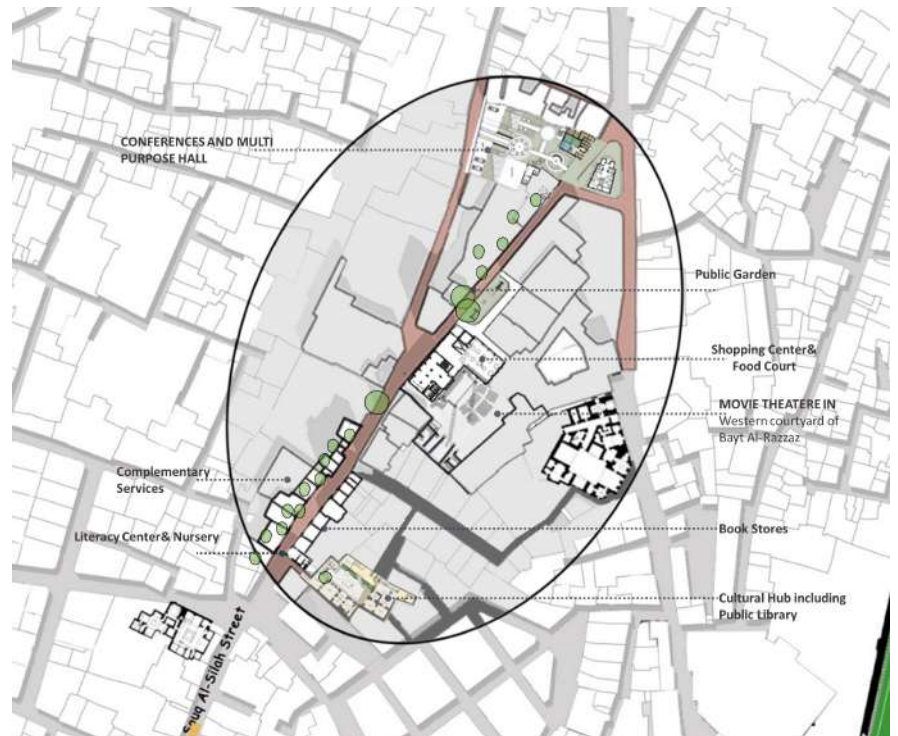
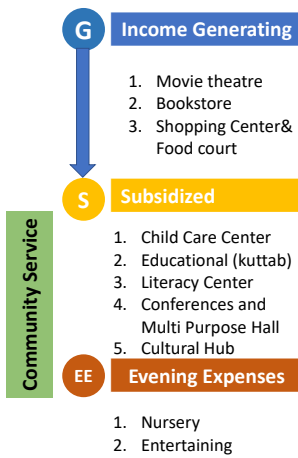
BASHTAK URBAN PLAZA AND ITS SURROUNDING:

SPA&HEALTHCARE CENTER, BEAUTY SALON, FITNESS CENTER, Physical Therapy Center, CENTRAL KITCHIENS, AND RESTAURANT



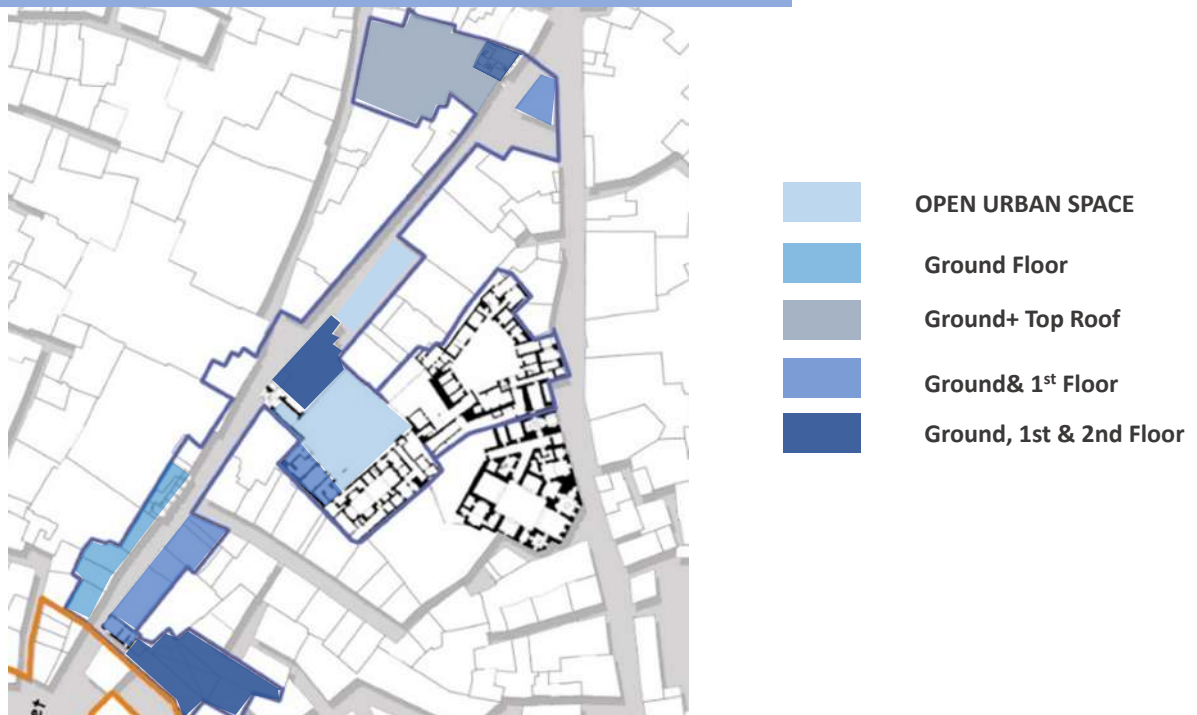
ハンマーム・バシュタークはこのようなデザインで、フィットネスセンターやホテル、理学療法センターなども作って、良いデザインにすることで、みんなに親しんでもらいたいと思います。中央には中庭を作って、美容室や食堂を入れることも考えています。スーク・シラーハ通りからハンマーム・バシュターク通りに抜ける遊歩道も考えて、ここには緑をたくさん入れ、車の心配なく滞在できる空間をつくりました。

CULTURAL NODE



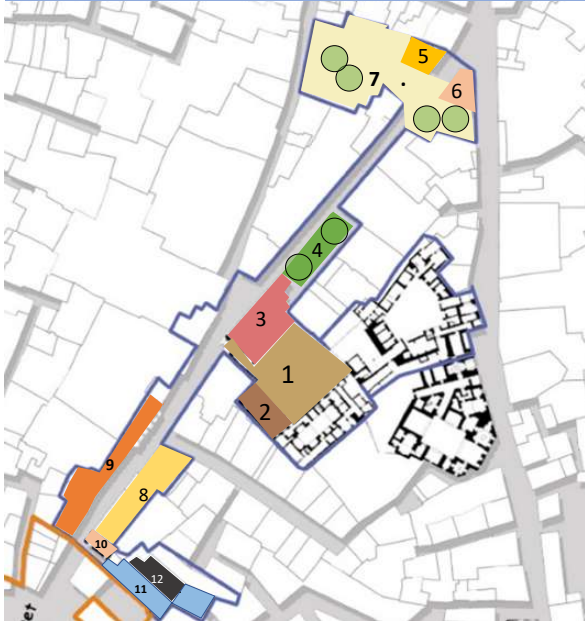
最後に文化ノードに移ります。バイトヤカンからザウィヤアーメルまでの地区です。前の2つのエリア同様に、経済性、緑、建物の中でどうするのかを考えました。

CULTURAL NODE USED FLOOR NO. IN EACH BUILDING



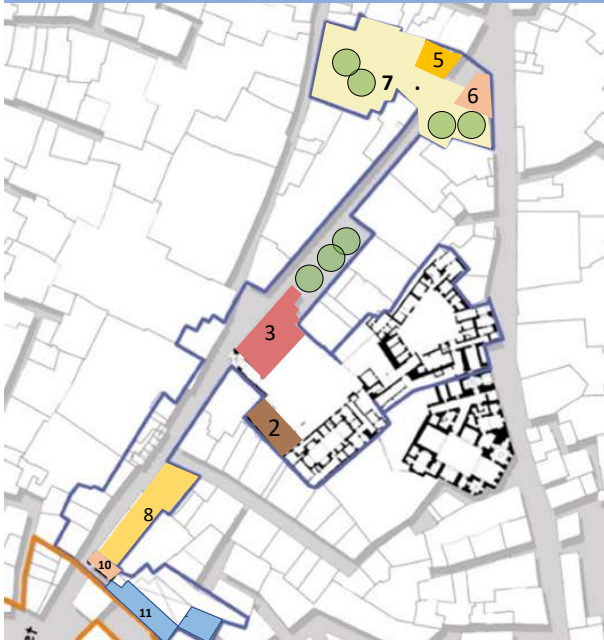
住民の一つの夢として、映画館や劇場を作ることになりました。バイト・ラッザーズの使われていない中庭を使うと良いと思います。ただ、同時に全てはできないので、少しずつ事業を進めていくことが大事ですね。1階では映画館の前にはフードコートをし、そしてセツバック部分は公園にしています。2階ではコーカリアーンの隣のラブアの2階を増築し、そこに子供の医療センターをつくります。屋上緑化も重要です。

CULTURAL NODE FUNCTIONS USED IN GROUND FLOOR



- 1** MOVIE THEATRE IN
Western courtyard of Bayt Al-Razzaz
- 2** SERCVES FOR THE MOVIE THEATER
- 3** SHOPPING CENTER& FOOD COURT
- 4** PUBLIC GARDEN+ BICYCLES PARKING
- 5** EDUCATIONAL (kuttab) IN
Zawyat Aaref
- 6** CONFERENCES AND MULTI PURPOSE
HALL : REAST AREA + HOLOGRAM+
RESTAURANT+ Services
- 7**
- 8** BOOKSTORES
- 9** COMPLEMENTARY SERVICES:
STATIONERY AND PAPERS SHOPS
- 10** LITERACY CENTER
- 11** CULTURAL HUB FOR: COMMUNITY TRAINING WORKSHOPS,
CULTURAL EVENTS AND LECTURES
- 12** SEMI PUBLIC COURTYARD

CULTURAL NODE FUNCTIONS USED IN FIRST FLOOR



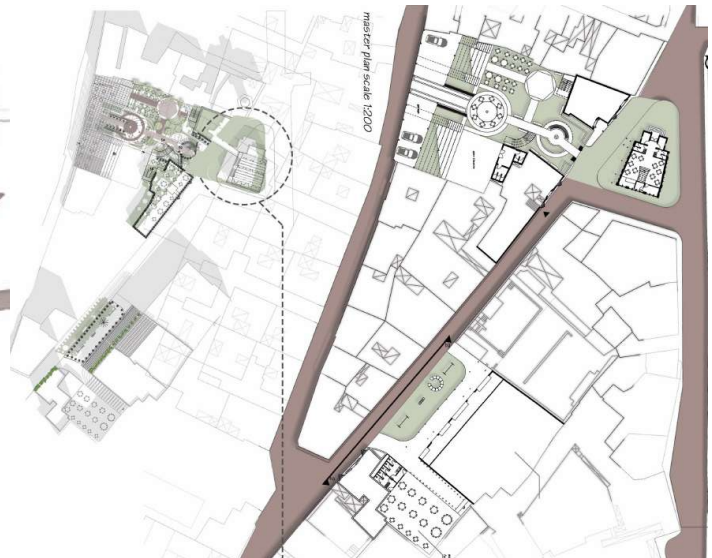
- 2** VIP BALACONY FOR THE MOVIE THEATER
- 3** SHOPPING CENTER& FOOD COURT
- 5** EDUCATIONAL (kuttab) IN
Zawyat Aaref
- 6** CONFERENCES AND OCCASIONS HALLS
- 7** CULTURAL URBAN SPACE + SERVICES
REAST AREA + RESTAURANT : Green roof
- 8** NURSERY& CHILD CARE CENTER
- 10** LITERACY CENTER
- 11** CULTURAL HUB: Public Library
and Lectures Hall

CULTURAL NODE FUNCTIONS USED IN second FLOOR



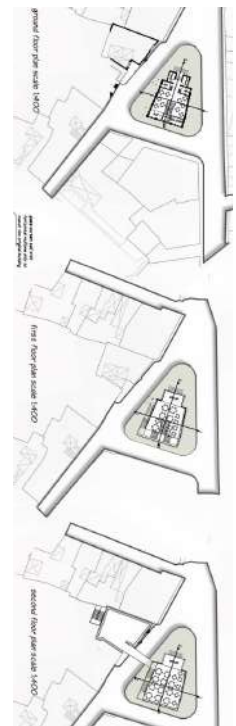
- 3** SHOPPING CENTER
- 5** EDUCATIONAL (kuttab) IN
Zawyat Aaref
- 11** CULTURAL HUB : RESEARCHER RESIDANCE

CONFERENCES AND MULTI PURPOSE HALL



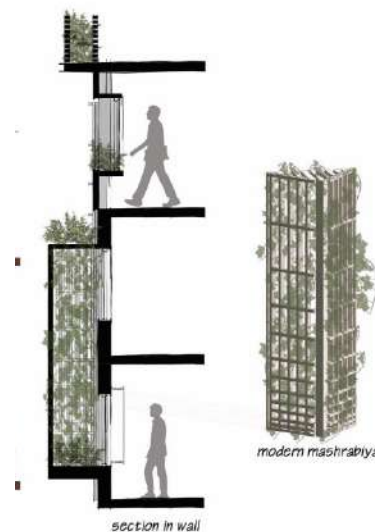
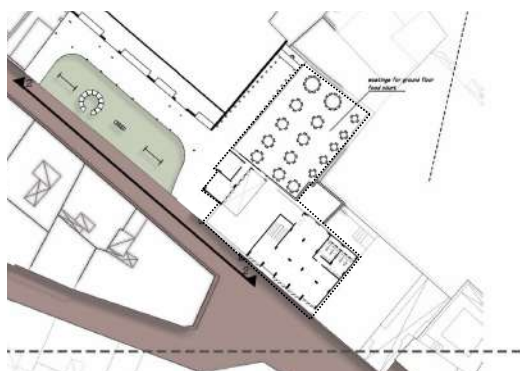
私の子供たちは、ここバイトヤカンに来るのをあまり好きではなくて、映画館やフードコートのあるニューカイロに行きたがります。でもここにも映画館やレストランを作れば、若い人たちも集まる場所になるでしょう。

CONFERENCES AND MULTI PURPOSE HALL



伝統的なデザインと新しいデザインをコラボさせた例です。若い人たちにとって古いものばかりでもつまらないかもしれないし、新しいものばかりだと古いものは守れないので、両方を混ぜ合わせて考える必要があります。ここには古いザウィヤがあったのですが壊されてしまったので、新たに立て直して結婚式もできるようなホールを作ったらどうでしょうか。三角形の敷地にある今使われていないコミュニティ・ホールと隣の現在の駐車場の土地を接合する形で、計画しています。三階レベルで両方を繋いでスーク・シラーハを横断するブリッジを作ってみるのも面白いかもしれません。

SHOPPING CENTER& FOODCOURT



環境に優しいことを証明するために、緑を増やします。

MOVIE THEATER IN BAYT AL-RAZZAZ WEASTERN COURTYARD

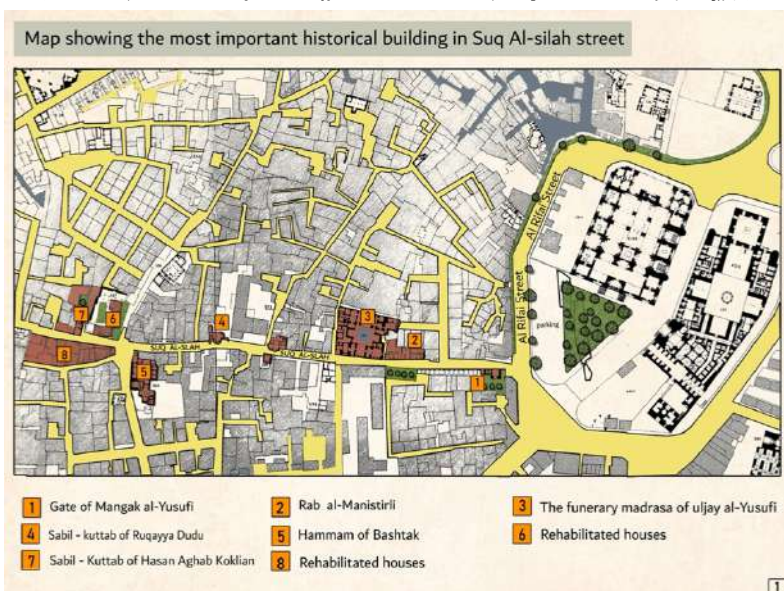
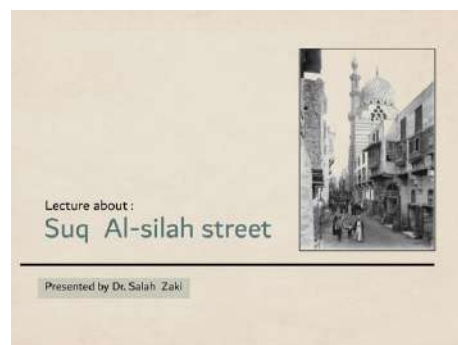


バイトラZZァーズ劇場です

できるだけ皆様の夢を早く実現することが求められています。ご静聴ありがとうございました。

③更新案プレゼンテーション:6つの歴史的建造物の公的再利用についてのデザイン(サラ・ザキ)

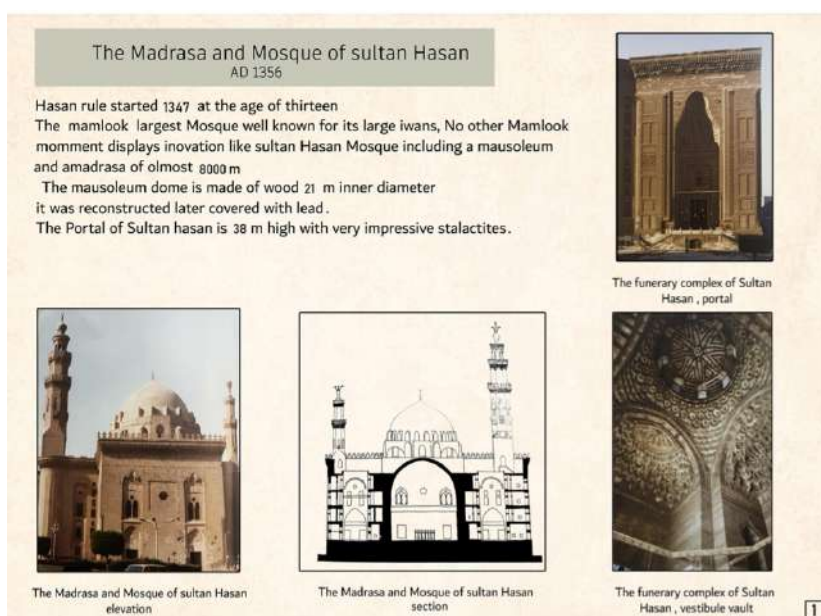
長いこと、スーク・シラーハで仕事を続けてきており、保存状態の悪い建物がたくさんあることは心得ております。専門が建造物の保護・修復でしたので、一生懸命にその仕事に携わってきました。その一つ、バーブ・ワズィールのプロジェクトは成功裡に終わり、高く評価されています。特にカイロ市長からは、同様なプロジェクトを継続したいというリクエストもありました。このプロジェクトでは歴史的建築の修復と同時に、どのようにしたら建物を実用的に活用できるかという課題に取り組んだわけです。例えば古いアパートで台所がないというケースがありました。住民はとても困っていて、住みやすくすることが目的だったので、台所を作りました。ちなみにバーブ・ワズィールのプロジェクトは、カイロ市が主催したもので、海外からの資金援助はなかったです。



スーク・シラーハに取り組んだときには、バーブ・ワズィールと同様にすることが良いと思いました。古いアパートでは、とても狭かったり、部屋が一つしかなかったりの状況もありましたが、そこに住む人々の要望を聞いて修復することにしました。協力的な住民がたくさんいました。アパートの中には、階数の多い高いものもあります。一方、長い廊下に小さな部屋が付いている場合など、一戸あたり 40 平米くらいのももあり、台所の増築などで住みやすくしていったわけです。この建

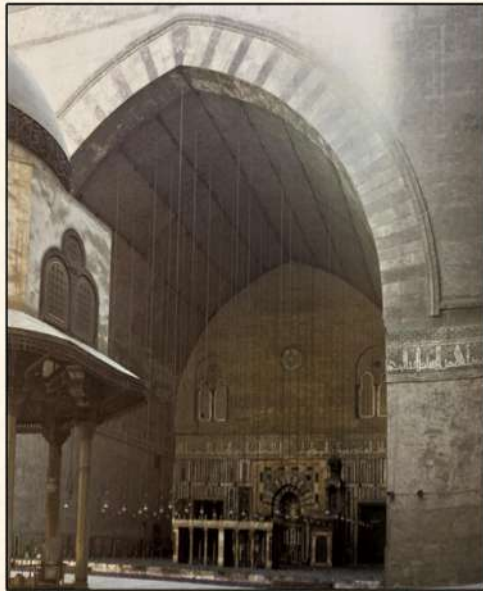
物はバイトヤカンの隣にあるナーセル時代に建てられたアパートで、スエズなどからの避難民の住居として作られ、40 年あまりを経過していたのです。修復後には、住民の方々からも賛辞をいただき、娘を住ませたという方もいました。同様なプロジェクトをここ、スーク・シラーハで続けていくことは重要で、まだまだ課題が残されています。

スーク・シラーハの入口はやはりスルタン・ハサンで、マムルーク朝最大規模を誇るこの建築をのぞいてスーク・シラーハを語ることはできません。



スルタン・ハサン・マドラサの内部には、伝統的工芸の数々の作品がありますが、これらは創建時の14世紀のものに加え、それぞれの時代に修復が繰り返され、その技術が今もなお保持されています。

The Madrasa and Mosque of sultan Hasan AD 1356



The funerary complex of Sultan Hasan , Main iwan



The funerary complex of Sultan Hasan , Main iwan

2

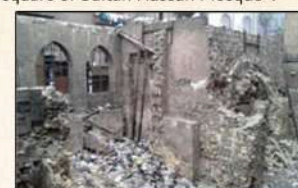
マンジャク・シラフダールの宮殿への門は、歴史的建造物としては、とても重要で、アラー氏から工芸の展示場にしたらどうかという提案がありました。私はやはり、ここはスーク・シラーハの顔として、観光客に歴史的な情報などを伝える旅行案内所兼文化センターにするのがふさわしいのではないかと思います。先に紹介したスルタン・ハサン・モスクと目と鼻の先にあるので、スルタン・ハサンを訪れる観光客に、さまざまな情報を提供できるわけです。また、2階テラスや屋上からは、スルタン・ハサンの素晴らしい眺望を確保できます。

1 Gate of Mangak al-Yusufi

Algai Alyusufi Selehdar commander of the Army to be used as a visitor center , art craft shop and a coffee shop on the first floor over looking to the square of Sultan Hassan Mosque .



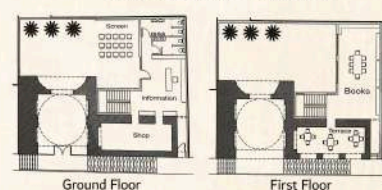
Gate of Mangak al-Yusufi



Gate of Mangak al-Yusufi from the inside

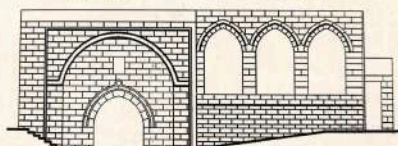


Visitor center 3d shot



Ground Floor

First Floor



Elevation

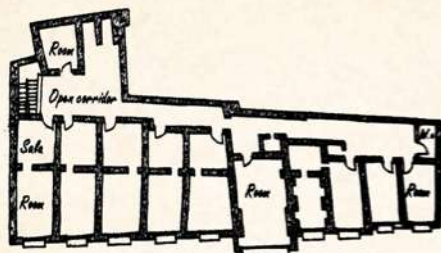
3

なお、先程、アパートの改修に付いてお話ししましたが、特にここマンジャク・シラフダール邸の近辺には、改修すべき建物がいくつかあります。それらと統合した地域として、修景していくことも重要です

次に、ラブア・マネステルリですが、隣にあるイルゲイ・ユーズフィーはマドラサ（イスラーム法学を学ぶ場）として建てられたので、このラブアの方が後に建設されますが、ラブアの2階の部屋にはイスラーム法学や神学を学ぶ学生たちが住んでいたのかもしれません。1階には小さな店が並んでいました。

3 Rabbe Al manistrili AD 1645

The Mosque is the domitory of the religious school caled Rabbe Al manistrili which is currently dilapidated with the remain ing ground floor Entry to



Firist floor of Rabbe Al manistrili before dilapidated



Elevation of Rabbe Al manistrili before dilapidated



Rabbe Al manistrili before dilapidated
2022

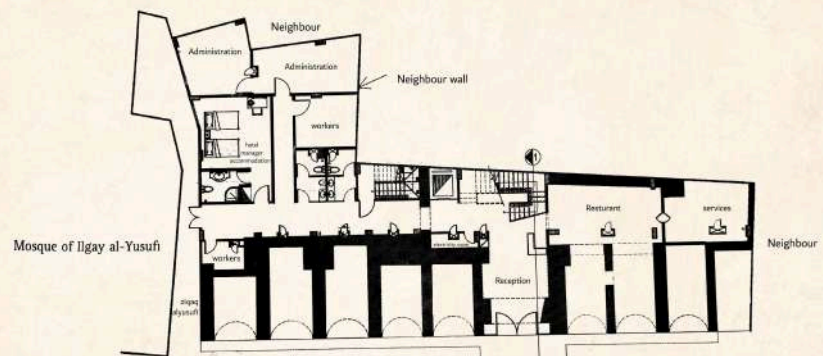


Rabbe Al manistrili before dilapidated
1993

4

ここは、小さなホテルとしての改修を考えています。現在のこの組積造1階の構造をそのまま使い、軽い材料で2階を付加していけば良いと考えます。1階には、本来の入口を用いて、裏に回れるようにします。そこに上階への階段や、管理室を配置します。ファサードにおいて入口北側の店のスペースはそのままにして、南側にはレストランを作ります。

The project is to rebuild the school and the ground floor shops to work as a small hotel with the same historic facade with 2 floors for hotel rooms and shops on ground floor.



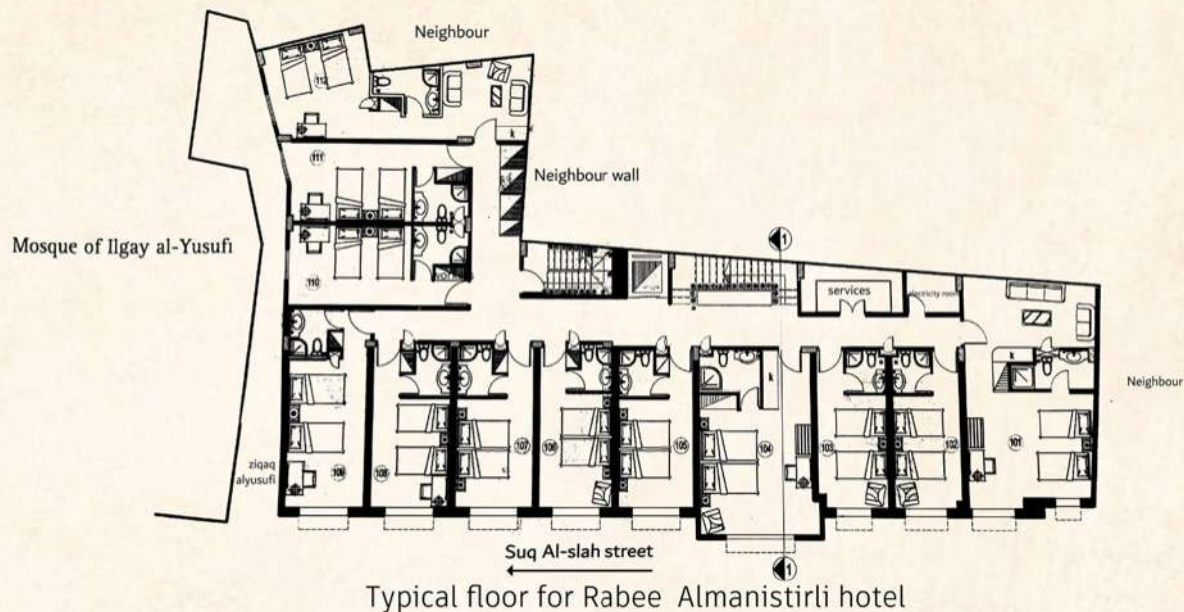
Ground floor for Rabbe Al manistrili hotel

Floor area : 375 m² (The ground floor consists of shops, services, communication and movement elements)
The number of shops 7, ranging in area from 9m² to 12 m²

5

2階は、ホテルの客室にします。しかしながら、資金集めには苦勞するかと思います。

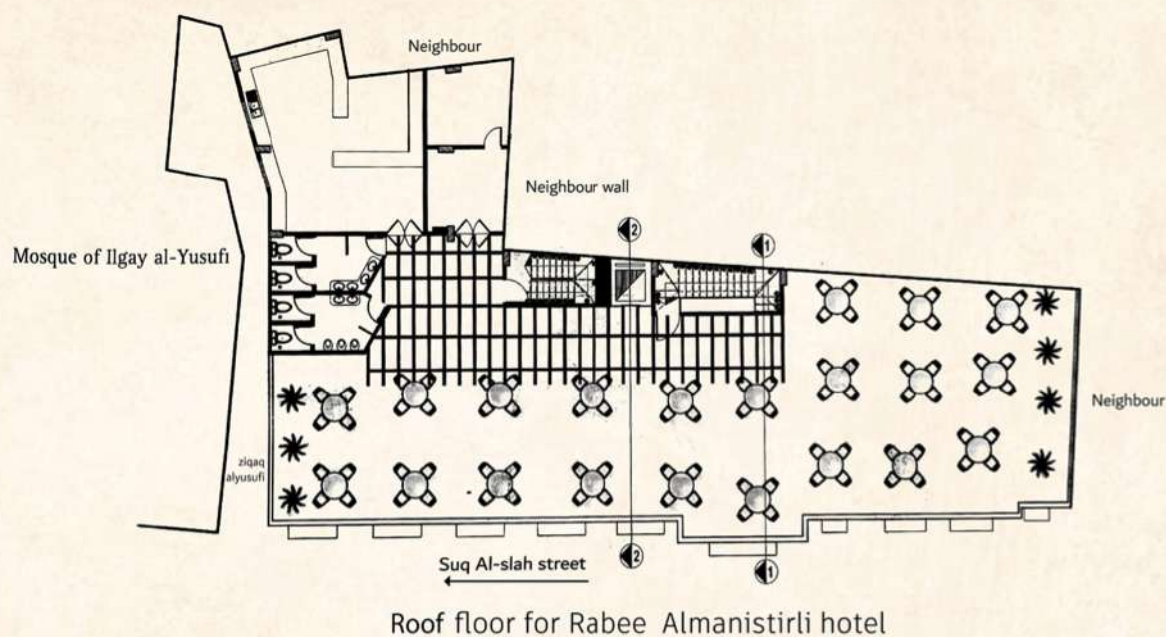
The project is to rebuild the school and the ground floor shops to work as a small hotel with the same historic facade with 2 floors for hotel rooms and shops on ground floor .



Floor area : 400 m² (The total number of rooms 24)

6

とはいえ、近傍のスルタン・ハサンを訪れる人にとっては、格好の宿泊場となります。ですので収益は十分に確保できると考えます。屋上はオープンなカフェ・レストランとします。



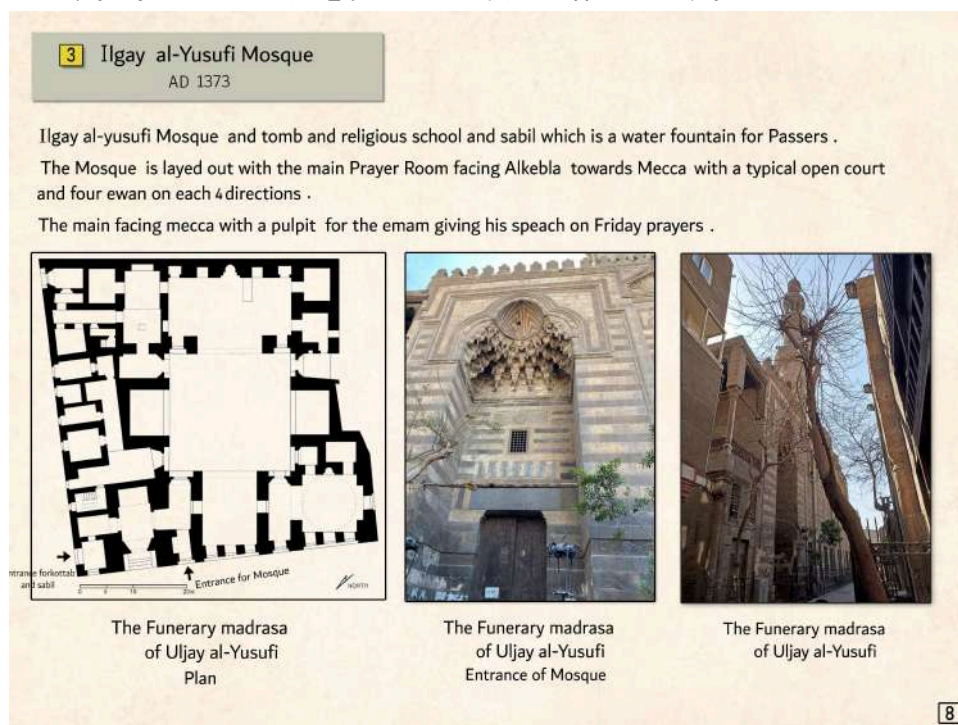
Floor area : 400 m² (it enough for 84 people , in addition to a kitchen , toilets ,and laundry)

The floor of the roof overlooks a palm yard and the restaurant is shaded by a wooden canopy with shade plants

7

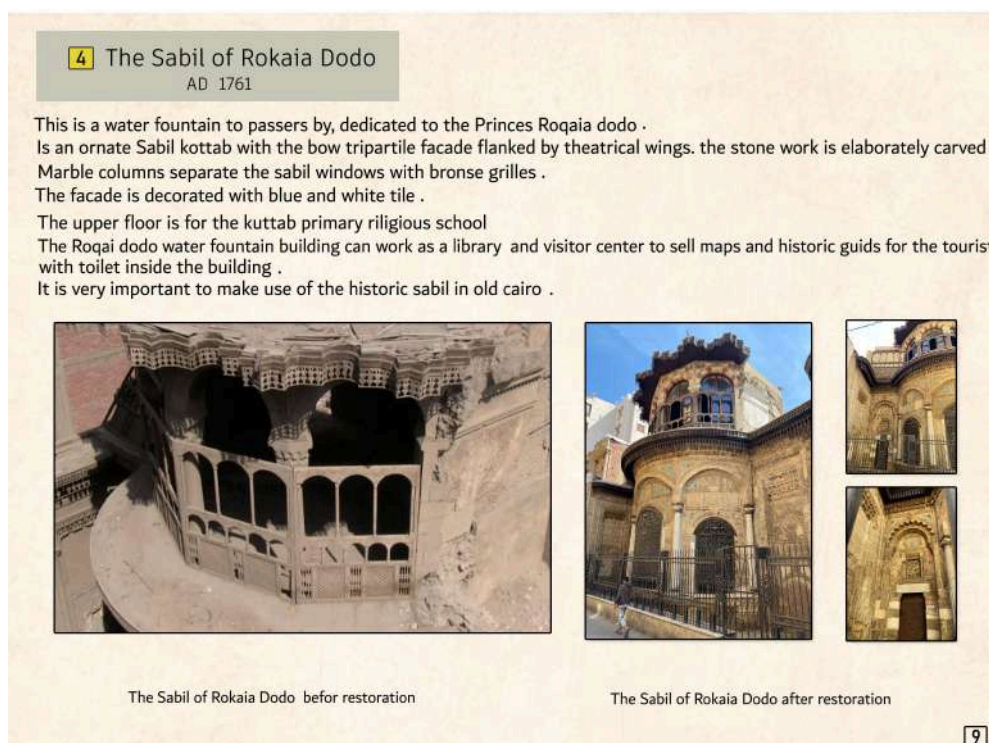
スーク・シラーハには歴史的価値のある建物が並んでいます。先程お話ししたイルゲイ・ユーズフイーもその一つで、現在はモスクとして使われますが、北西の隅にコーラン学校が付いています。

スーク・シラーハには見所がたくさんあるので、自動車交通をストップして、歩行者天国にすることが良いでしょう。それによって道を行く人々の安全が保たれます。



サビール・ルカイヤ・ドウドウもその一つですが、とても綺麗で、特徴的な形をしています。このサビールは、先程マンジャク邸で提案したような、観光客にパンフレットを配布するような場とし、小さな図書館を併設することも可能です。スークシラーハを訪れる人にトイレを準備することも考えられます。

ちなみにカイロには数多くのサビール・クッターブがあり、その活用はスーク・シラーハを活性化させるでしょう。



ハンマーム・バシュタークについては、修復して伝統的公衆浴場の機能をそのまま復活することが望まれます。本来は男性部分と女性部分が対になる形の公衆浴場でしたが、男性部分の半分だけが残っています。ここを修復して、男性と女性の時間帯を分ければ、地元の人々もたくさん訪れるようになるでしょう。

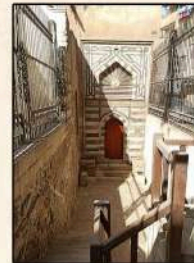
5 Hammam of bashtak AD 1341

Bashtak, an amir and the master of the robes of Sultan al- Nasir Muhammad , was the builder of the palace in Bayn al-Qasrayn .

His bathhouse has an elaborate ablaq portal, now located about one and a half meters below ground level with a ribbed keel arch .

The hammam of Bashtak may originally have been a double bath for men and women .

The men's half was in use until relatively recently . the interior , probably remodeled in the ottoman period , preserves many typical elements of bathhouse design .



Entrance of Hammam of bashtak



Hammam Bashtak from the inside



10

これは先程お話した、ナーセル時代のアパートですが、修復前と修復後を比べていただければ、我々のプロジェクトによって、随分と綺麗になったことがお分かりになるでしょう。

6 19th century houses restoration



3d for houses before restoration



3d for houses before restoration

11

バイトヤカンの前にたつサビール・クッターブですが、ベルフィーヤと呼ばれるワクフ文書が残っています。本来は、隣のウィカーラ（商館）とバイトヤカンとセットで建設されたものです。現在店舗が入っているウィカーラ部分の修復と活用も大きな課題です。

7 Sabil - Kuttab of Hasan Agha Koklian

This sabil, constructed by a commander of the Soldiers , is known also as the sabil-kuttab in the waqf of Balfiya . The facades have decorative stone strapwork, an inscription and tiled lunettes over the bronze window grilles at ground level , and typical arcades at the level of the kuttab . Marble water basins and a salsabil with a muqarnas hood survive internally, together with a painted wood ceiling . An adjacent wikala, survive, was probably included in the listing at some point .



3D for Sabil - Kuttab of Hasan Agha Koklian



3D for Sabil - Kuttab of Hasan Agha Koklian

12

最後に、カイロ市のプロジェクトで、ちょうどバイトヤカン前のアパートの修復事例です。出窓やバルコニーについては、私的空間を外から見られないようにシェードをつける工夫をしました。これで、私の発表は終わりです。ご静聴有難うございました。

8 19th century houses restoration



3d for houses before restoration



3d for houses after restoration

13

④カイロ歴史地区におけるユネスコ支援事業

【Ongoing project at Historic Cairo supported by UNESCO】

ユネスコカイロ事務所 文化担当官 高橋暁

Historic Cairo = World Heritage site 	Historic Cairo = Living City  • World Heritage CANOPY https://whc.unesco.org/en/canopy/ A living platform of innovative strategies and practices that integrate heritage conservation with sustainable development. • Good Practice: Community-centred revitalisation of Souq al-Silah in Cairo (Egypt)
---	---

カイロ歴史地区は、エジプトの首都カイロにある世界遺産です。

歴史地区カイロは人々の生活の場であり、生きている遺産といえます。トヨタ財団の支援を受けて、今私たちが集まっているこの場所で始まった「住民参加によるスーク・アル・シラー再興事業」は、昨年「世界遺産キャノピー」で紹介されました。「世界遺産キャノピー」は、文化遺産保護を都市の持続的開発に統合する革新的な戦略や事例を紹介するオンラインのプラットフォームです。

Historic Cairo: Cultural Space for ongoing transmission of knowledge and skills (ICH)

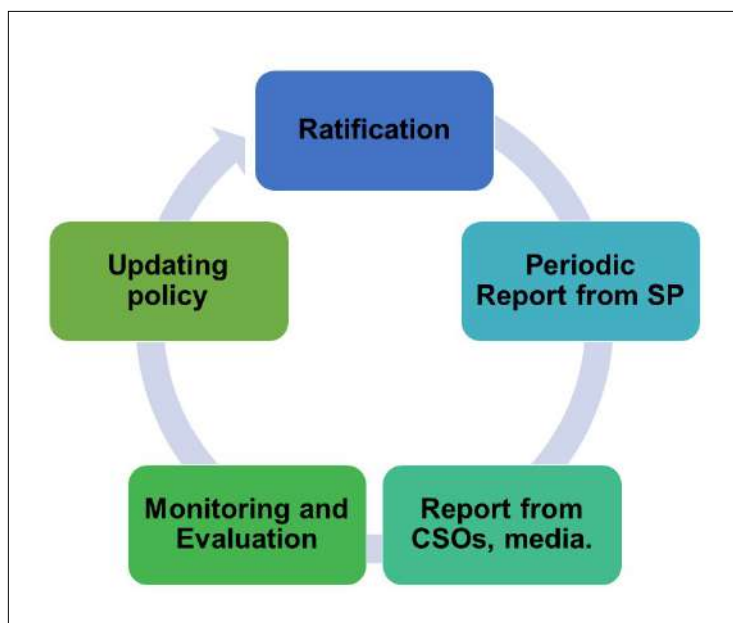


歴史地区カイロは、伝統知識や技術（無形文化遺産）の継承が行われている文化的空間でもあります。スライド左の写真は、ユネスコ無形文化遺産条約に登録されているエジプトの伝統的な人形芝居「アラゴーズ」で、カイロ歴史地区で鑑賞することができます。右の写真は、エジプトのフランス語新聞の無形文化遺産ワークショップ開催に関する記事に使われていたものですが、マシュラベイヤとよばれるイスラーム

社会における伝統的な組細工制作の熟練者が、若い世代にその技術を見せている写真です。

Comparing two Conventions (1)		Comparing two Conventions (2)	
World Heritage (1972) • Conservation of Cultural property, natural property, mixed property • “Outstanding Universal Value” (OUB) • Authenticity and integrity help to define value, often restricting change	Intangible Heritage (2003) • Safeguarding of <u>all</u> expressions, skills, practices and knowledge (5 domains: Knowledge, Oral tradition, Performing arts, Social practice, Traditional Craftsmanship) • No hierarchy among ICH - Communities concerned define value • Viability to keep ICH alive, relying on ongoing transmission	World Heritage (1972) • World Heritage List (Article 11) • World Heritage in Danger List (Article 11) • Advisory bodies = ICCROM, ICOMOS, IUCN (3) • World Heritage Fund (mandatory contribution from states parties)	Intangible Heritage (2003) • Representative List of the ICH of Humanity (Article 16) • List of ICH in Need of Urgent Safeguarding (Article 17) • Register of Good Safeguarding Practices (Article 18) • Advisory NGOs accredited by UNESCO (Over 190) • ICH Fund (mandatory contribution from states parties)

歴史地区カイロの保存に直接関連するユネスコの条約が二つあります。一つは1972年に採択された世界遺産条約。もう一つは2003年に採択された世界無形文化遺産条約です。二つの条約は、アプローチや国際協力の方法について若干の違いはありますが、世界の遺産と文化的表現の多様性の保護と促進という共通の目的を持っています。その違いをスライドに示しました。



条約を批准した加盟国政府は、ユネスコに対して定期的に有形・無形遺産の保存状況に関して報告書を提出する義務があります。ユネスコには、政府からのみならず、非政府組織やメディアからも情報が寄せられます。ユネスコはこれらの情報を基に、遺産の保存状況を継続的にモニターしており、必要があれば関連の国に専門家を派遣して、遺産の保存状況を確認することもあります。この仕組みを通して長期的に、文化遺産保護の政策をより効果的なものにしていくことが究極の目的といえます。

歴史地区カイロについては、昨年の世界遺産委員会で 44 COM7B.13 という決定がなされました。この決定はエジプト政府に対して 2022 年の 2 月 1 日までに幾つかの点に関して回答することを求めています。エジプト政府は報告書を締め切りまでにユネスコに提出しました。報告書は、正式に受理された後に、オンラインで見られることとなります。報告書はカイロ歴史地区保存に関して様々なイニシアチブやプロジェクトが進行中であることを報告しています。

次に無形文化遺産条約の施行に関してですが、ユネスコカイロ事務所は 2018 年から 2021 年にかけて、エジプトにおける無形文化遺産記録作成に関する訓練事業を支援しました。この事業によって、2000 の写真、200 のビデオによって、200 にのぼるエジプトの無形文化遺産の記録が行われました。

State of Conservation (SoC) Report submitted to the World Heritage Centre

• Decision: 44 COM7B.13 (2021)

17. Further requests the State Party to submit to the World Heritage Centre, by **1 February 2022**, an updated report on the state of conservation of the property and the implementation of the above, for examination by the World Heritage Committee at its 45th session (in July 2022).



Capacity Building on Inventorying ICH in Egypt (2018-2021)



- Training workshops.
- Pilot community-based inventorying exercise in six different locations throughout Egypt (Cairo, Fayoum, Gharbeya, Aswan, Assuit, Siwa).
- Establishing a national inventory of Intangible Cultural Heritage (ICH) under the Ministry of Culture, in collaboration with the communities' practitioners.

2- Bataw Bread Inventory – Assiut Governorate



Image 34: Bataw Bread Inventory



Image 35: Bataw Bread Inventory



Image 36: Bataw Bread Inventory

3- Waterwheel carpentry Element Inventory - Fayoum



Image 27: Community carrying the waterwheel



Image 28: Installing the waterwheel

6- El Mouldid Doll Inventory, Cairo Governorate



Image 34: Making the sugar doll



Image 35: The sugar doll



Image 36: Tools for decorating sugar dolls



Image 37: Woman decorating sugar dolls

左上のスライドはアシュート県における伝統的なパン作りに関するものです。その右は、ファイユームにおける水車作成技術。

右のスライドは、カイロでは聖者誕生祭(マウリド)の際に欠かせない人形の形をしたお菓子の作成に関連する無形文化遺産の記録を行いました。

現在は、下左にあるように。無形文化遺産条約によって設立された無

形文化遺産基金からの支援を受けて「歴史地区カイロの伝統工芸の記録保存事業」が行われています。事業の第一回のワークショップはアズハル公園内の会議場で開催されました

この事業はカイロ当局と無形文化遺産条約の担当である文化省、そして、エジプト民俗伝統協会 (ESFT) が中心となって実施しています。ESFT はユネスコ無形文化遺産条約によって認定を受けた NGO で、モルシー博士のリーダーシップのもと活動しています。この事業は歴史地区カイロに関連する伝統工芸の記録に焦点を当てています。関連伝統工芸は多岐にわたりますが例えばアラベスク、木彫、テント、竹細工、絨毯、アラブ書道、宝石、貝細工、金属細工、ガラス細工、ランプ、如何細工、陶芸、ビー細工、皮細工、製本技術などが挙げられます。

ICHC project (with grant from ICH Fund)



Inventorying Craftsmanship in Historic Cairo

- Cairo Governorate and Ministry of Culture
- Egyptian Society for Folk and Traditions (ESFT) – Accredited NGO under the ICH Convention
- Traditional craftsmanship (One of the domains of ICH), e.g. Arabesque : stained wood, Sculpture, Tentmakers, Bamboo, Carpets, Arabic calligraphy, Jeweler/accessories, Seashell, Metal drilling, Blow glass, Interlocked glass, Lamps, Cooper, Potteries, Ebony stick, Rosary (beads), Leather, Wood and seashell veneer, Book binding and more...



スライドのようなマシュラバイヤの作成に関連する知識や技術は重要な無形文化遺産といえるでしょう。



ユネスコは文化遺産、芸術や創造活動からなる「文化」がどのように持続的開発の目標の達成に貢献しているかを明らかにしていくことが重要と考えています。例えば文化と教育は密接に関連しています。なぜなら母語による教育は英語など外国語による教育よりも、効果が高いからです。また文化に関わる機関（博物館、図書館等）や、文化遺産観光はたくさんの雇用を生み出しています。私たちが今日のワークショップで議論してきたように、文化遺産を統合することによって都市は一層魅力的で持続的な場所となります。

Link between Culture (Heritage, Arts and Creativity) and Sustainable Development



Spread the word, share stories...



(1.5.1)	Expenditure on Culture and Heritage from total Government Expenditure	3.34%	2019	3.17%	2020
---------	---	-------	------	-------	------

- Reporting of progress in National Strategy for Sustainable Development (e.g. Egypt Vision 2030).
- Voluntary National Review (VNR) presented at the High-Level Political Forum at the UN
- Egypt's 2021 VNR highlighting contribution of culture to SDGs (3% of national budget, heritage/museum, etc.)

⑤ワールド・モノメント・ファンドの現在のプロジェクト; イブラヒム・グルシーニャのタキエ

【The Takiyyat Ibrahim al-Gulshani Project】

ワールド・モノメンツ・ファンド ジェフ・アレン

私はプログラムディレクターです。エジプトや世界中のプロジェクトを担当していて、エジプトではバーブ・ズウェイラのタフティル・ルブア地区のプロジェクトをマネジメントしています。イラクにも担当しているプロジェクトがあります。とても古いイラクのバビロン遺跡です。

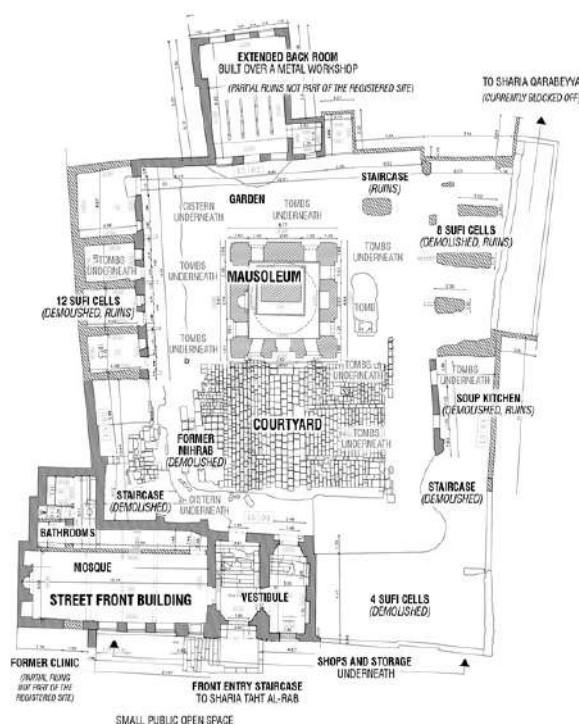
このカイロのプロジェクトにはスポンサーがいくつか付いているのですが、一番重要なスポンサーはアメリカンバサダーファンド (USAid) です。

タキエ・グルシャニについてお話しします。バーブ・ズウェイラの前にあります。とても近いです。マムルーク朝からオスマン朝に政権が変わった時に建てられた建物です。最初は3階建てでした。シェイク・グルシャニが埋葬された場所が中央にあります。その周囲の庭にはそれ以後のスーフィー（神秘主義者）の信者たちが埋葬されています。



Takiyyat Ibrahim al-Gulshani

Built between 1519 and 1524 by Ibrahim al-Gulshani, an influential Sufi sheikh from Azerbaijan whose life in Cairo bridged the period between Mamluk and Ottoman rule, Takiyyat Ibrahim al-Gulshani complex is located in the heart of Cairo's al-Darb al-Ahmar medieval quarter.



Description of Takiyyat Ibrahim al-Gulshani

Entered through a monumental portal, the complex is architecturally unique. It comprises al-Gulshani's Mamluk-style mausoleum with its ornate façade and carved stone dome; a courtyard and garden surrounding the mausoleum framed by Sufi retreat cells and a communal kitchen; and a street-front, three-story building with a prayer space and additional cells on the first floor and apartments for al-Gulshani's extended family above. The courtyard was used as a ritual/performance space, and beneath it are the crypts of al-Gulshani's closest relatives and followers.



前頁下図は複雑な平面ですが、これは上から見た形です。中央の廟はグルシャニの埋葬されたところ
です。スーフィーたちが住んでいた建物もあり、真ん中には中庭がありました。周囲の住房は、ほとん
どなくなってしまいました。政府によって意図的に破壊されたのです。その時はグルシャニ教団のスー
フィーたちがエジプトに戻ってほしくないという意図で、破壊されました。

Current Condition of Takiyyat al-Gulshani

Today, the Takiyyat Ibrahim
al-Gulshani complex lies in
various states of ruin, a victim
of financial limitations,
earthquakes, looting,
and changing religious
administrative structures.

The scarcity of documentation
and the deterioration exacerbated
by its vacancy placed the
monument's survival at high risk.



今に至り、このようになっていますが、もちろんすごく壊されています。資料が乏しくて、長いこと
空き家になっていたので荒廃が激しいのです。政府の宗教政策の変化の波に飲まれてしまいました。



A Product of Demolition by Neglect

Abandonment of Takiyyat
al-Gulshani over the past decades
has demonstrated that leaving
the site empty makes it vulnerable
to deterioration and theft, while
also creating a substantial void
in the neighborhood.

上図は 1917 年の形ですが、2017 年と比べるといろんな破壊があったのか分かります。空き家
にしておいたことによって、劣化や盗難があり、近隣住民から大事にされておらず、壊されたところも
あり、色々な箇所が無くなってしまいました。



The façade of Sheikh Ibrahim al-Gulshani's mausoleum in the 1980s
Al-Darb al-Ahmar, Cairo

Capable Occupancy is Key for Survival

Vibrant and engaged occupancy is therefore crucial to successful adaptive reuse, securing the maintenance of the site, and re-establishing the Takiyyat al-Gulshani as a mainstay of community life.



もちろん以前の形は皆さんご存知だと思いますが、この写真は1980年代の写真です。まだ子供もいましたし、そこに住んでいた人もいたと思います。完全に閉鎖される前の写真です。

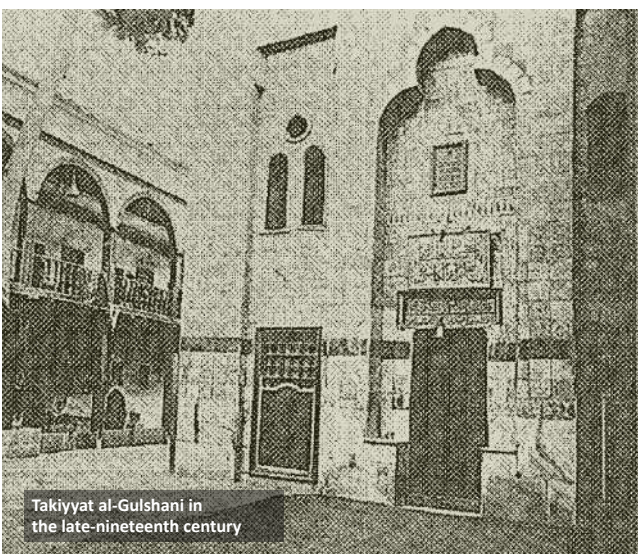
私はこのワークショップの前に、バグダッドのラシードに二日間いました。バグダッドのラシードはいつも活気があるところです。30年間の戦争や破壊があったと思います。このタフティル・ラブアの写真は1930年代のものですが、2019年と比較するとまるで戦争で壊されたような状況です。当時はスーフィー教団がとても重要だったので、指導者グルシャニの後継者たちがここを拠点としていました。

1517年のオスマン朝による征服後、カイロで最初に設立された宗教施設で、また、初めて

タキエと呼ばれるようになりました。グルシャニは、カイロの他のスーフィー施設とは異なり、宗教的な機能と世俗的な機能の双方を備えていました。



Taht al-Rab Market with Takiyyat al-Gulshani
prior to 1930 (left) and in 2019 (right)



Takiyyat al-Gulshani in
the late-nineteenth century

Why is Takiyyat al-Gulshani Important?

The complex was the first religious foundation established in Cairo after the Ottoman conquest in 1517, and the first to be named a *takiyyat* in its foundation deed. Unlike other Sufi lodges in Cairo, al-Gulshani's comfortably accommodated both religious and secular functions.

Why is Takiyyat al-Gulshani Important?

Sheikh al-Gulshani's choice of the al-Darb al-Ahmar quarter was strategic, owing to the significance of **Bab Zuwayla**. Seen as a protective device, the gate's proximity to the Takiyyat allowed al-Gulshani to appropriate its talismanic power. More pragmatically, the Takiyyat faced the side entrance to one of Cairo's largest mosques, **al-Mu'ayyad**. The three complexes together became the focal point for the Gulshaniyya Sufi order.



Project Objectives for Phase One

World Monuments Fund (WMF) began work at the Takiyyat Ibrahim al-Gulshani in 2018 to evaluate current conditions and develop a plan for interventions. Working with the Egyptian Ministry of Tourism and Antiquities (MoTA), local documentation specialists, architects, and university faculty and students, WMF has conducted extensive documentation of the Takiyyat al-Gulshani buildings and initial interventions.



Project Activities for Phase One

Funded by the **Ambassadors Fund for Cultural Preservation (AFCP)**, this work formed the basis for the Takiyyat Ibrahim al-Gulshani conservation plan and adaptive reuse options.

Additionally, WMF conducted workshops through the EU-sponsored **ILUCIDARE** program assisted by the **Japan Society for the Promotion of Science**. This allowed WMF to expand discussions on documentation standards, adaptive reuse, and building materials conservation with MoTA staff and local conservation specialists.



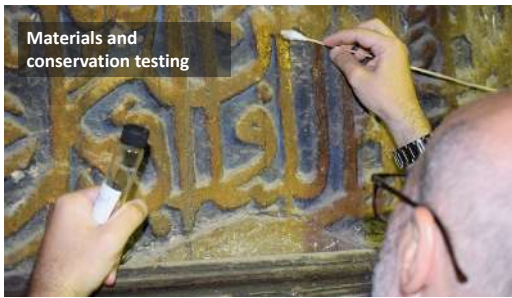
- A massive site cleaning
- Structural investigations and stabilization of at-risk areas
- Analysis of building materials to develop a viable and appropriate conservation approach
- Geotechnical studies
- Historic documentation research
- A 3D laser scan of the site
- Production of architectural drawings
- Urban context assessments in the study area
- A baseline community study and social survey of attitudes towards the site and suggestions for its reuse



タキエの周りの歴史的建築も無視することはできません。隣のバブ・ズウェイラは、教団員からカイロの中心としての不思議な力を持つと認識されていました。スーフィー教団の人たちは、広大なムアイヤド・モスクを使って礼拝をしていました。加えて、教団指導者たちは当時、同じ地区の中に色々な建物を持っていました。グルシャニの建物だけ見るのではなくて、周りがどんな地区だったのか、周りの重要な遺跡も見えて考えることが大事です。

最初の活動のステップは、どのように修復することができるのか、そのためにいろんなワークショップをやり、文化庁の責任者や関係者も参加して頂きました。左中央の写真に写っている皆さんは観光考古省からの方々です。

左下はプロジェクトのフェーズ1を表すものなのですが、もちろん資金協力を得て、色々なワークショップを行うためにヨーロッパから来ていただきました。一部の資金協力もJSPSから頂いております。



Project Priorities and Objectives for Phase Two

Thanks to AFCP support from the US Embassy, after completing a comprehensive phase of documentation, study, and assessment, the project is now moving toward Phase Two physical interventions.

This phase will build the foundation for future, continued conservation and restoration phases as part of a long-term investment at the site.

- Advanced community engagement and outreach programming
- Developing an adaptive reuse plan for the site
- Initial street front building conservation
- Conserving the mausoleum's exterior and interior
- Rehabilitating the courtyard platform performance space
- Capacity-building activities for governmental and non-governmental partners

Objectives for Future Funding and Phases

WMF believes **Phase Two physical interventions will catalyze further donor support and programming** meant to ingrain a sustainable outcome that serves the monument's preservation well after the completion of the project.

With support from other donors, these later work phases can extend conservation activities that address the adaptive reuse plan. Importantly, they will leverage tangible interventions at the monument to enhance the community context.

- Complete street front building conservation
- Implement adaptive reuse programming
- Conservation of standing ruins around the courtyard
- Public space upgrades in front and behind the complex
- Rehabilitation of adjoining traditional properties

私も色々な活動を計画しました。今後の進展や修復のために行ったワークショップで、住民も参加して修復活動をする様子も見られます。私たちがやりたい事とまったく同じですね。

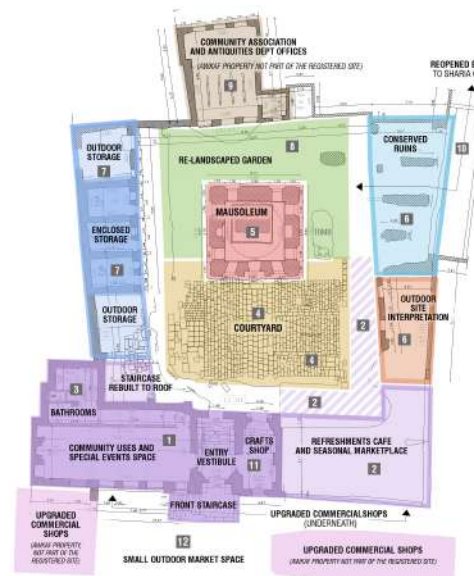
運が良かったことに、政府の重要な責任者から、我々がやっていることを理解し、応援し協力してもらうことになりました。私たちは大きなプログラムをしていて、住民の参加も考えており、大きな資金協力も頂きました。フェーズ2としては、地域者期との関わり、敷地再利用、街並みの修景、墓廟の補修、中庭の改修、人材の開発を計画しています。

修復のために資金協力を使うのですが、それだけではなく、そのコミュニティに合った活動を考えて、その地区の改善・発展を促すことも考えています。

その持続性を実現するためにはやはり困難があると思いますが、色々考えています。建物は政府が管轄している場合が多いので簡単には出来ないと思いますが、政府が許可する、あるいは観光考古省、文化省の責任者・関係者が地域の投資家と協力して一緒にプロジェクトを行ったり支援したりすることを考えています。例えば、研究者も周りの大学や研究所の研究者達にも参加していただくことを考えています。サラ先生とアラ先生の記事にもあったように、我々も同じことを行いました。それぞれの地区で、何をどのようにするかをこのようにマッピングしました。我々もアラ先生の記事にもあったように、収入やボランティア活動と共に、社会に関わる活動、子供に関わる活動、文化・遺跡に関わる活動を大切にしています。

この図はタキエの未来の活用計画図です。遺跡を残すことだけではなくコミュニティにどう役立てていくのかという点が焦点になります。

組織をつくることが大事で、文化庁の関係者・責任者も関与して頂くようにしっかりと組織を運営していくことが大事だと思います。エジプト人のお祭り、ラマダン月とか、犠牲祭とかで、伝統的な物事をどのようにして我々のプロジェクトに活かせるか、ということも考えています。ご清聴ありがとうございました。



A Model for Urban Rehabilitation

The Bab Zuwayla neighborhood, including the Takiyyat al-Gulshani and complementary Taht al-Rab Market, is a priority of the Egyptian government for tourism development. WMF, through its history at the site and years of trust and relationship-building, can be a participant in the conversation about redevelopment of historic sites.

Our program respects the government's ideas about tourism for the Bab Zuwayla neighborhood and simultaneously promotes the community's desires to reintegrate the complex into their daily lives.

Formula for Sustainability

World Monuments Fund believes that the Takiyyat Ibrahim al-Gulshani Complex Conservation Project will ultimately provide a compelling demonstration of the positive, sustainable outcomes arising from a **conservation methodology emphasizing antiquities partnerships, education, and community engagement.**

Adaptive Reuse Concepts being Evaluated

- 1 Taht al-Rab multi-purpose community, special events, and Taht al-Rab trades center
- 2 Outdoor refreshments cafe with retractable shelter and seasonal commercial marketplace
- 3 New bathrooms
- 4 Courtyard culture performance stage
- 5 Sheikh al-Gulshani's mausoleum preserved as a centerpiece archaeological ruin
- 6 Sheikh al-Gulshani and takiya interpretative exhibit
- 7 Indoor and outdoor storage spaces
- 8 Garden and cemetery
- 9 Community association and antiquities department site management office
- 10 Community entrance to Sharia Qarabeyya
- 11 Traditional crafts cooperative showroom
- 12 Taht al-Rab market frontage rehabilitation, including commercial shop upgrades and a multi-purpose outdoor market space



⑥質疑応答・意見交換

参加者からは、「このプロジェクトに関わっていることに感謝したい、文化遺産と社会との繋がりが理解できた、是非このプロジェクトを成功してほしい」といった歓迎するコメント共に、「提案されたものはいつ実現できるのか?」といった質問に対して、「はっきりとは答えられない」との返答がなされるなど次の具体化へのステップが求められる状況が見受けられた。観光考古省職員から、「住民の意見を大切にしたプロジェクトであり、国立都市景観調和機構(NUOH)と共同のプロジェクトで、ユネスコとも関わりがあるので、このような機会は大切である。特に歴史的建造物の建物ばかりに集中するのではなく、住民の意見をそこに活かそうという点は評価できる」とのコメントがあり、この事業への評価が感じられた。

住民からの「違法で建てられた建築は取り壊されるのか?」の質問に対して、観光考古省職員から「現在、古い建物をリストアップ中で、建物の構造がきちんと耐えられるのかということを現状把握している。ただし、観光考古省としては、一般の建物ではなく歴史的な建物をどう保存するかの視点に注目している。」という回答があった。参加した建築家から「カイロは地震が多く、耐震補強をする必要がある建物がたくさんある。」との意見があった。住民から「古い建物が壊れると周辺住民に被害が及ぶのではないか」とのコメントがあるなど、壊したほうが安全なのではという住民の現状を心配する意識と、壊される以前にその建物の歴史的価値を評価して保存すべき建物があるという専門家の意識のズレも垣間見られた。別の住民から「違法建築や古くて耐震性に疑いのある建造物の撤去に関しては、政府主導で行われ、残念ながら住民の決定は届かない。」、「旧市街では、住民自身が価値のない建物だと思って、歴史的な建物を壊してしまう場合も多々起きている。」など、建物の撤去・倒壊については、住民たちの注視的になっていることが明らかである。その背後には、近年政府が、違法建築(インフォーマル住居、アシュワイヤ)の撤廃をスローガンに掲げているという状況がある。



ダルブ・ラッバーナの撤去された住宅地、マムルーク朝期のムアイヤド病院とビスタミー修道場を残す形で周囲の住宅が、2022年2月の調査の際に撤去されている最中であつた。ここにどのような住宅地が開発されるのだろうか。ここに住んでいた普通の人々はどこに住居を与えられるのだろうか。いずれにせよ数百年の歴史を持つ細街路網とそこに建っていた住宅は撤去されてしまった。この地域は世界遺産のコアゾーンであるだけでなく、『エジプト誌』の詳細地図にも住宅地として描かれる。

住民側から、アラー氏の提案に対して、「スーク・シラーハの入り口から文化、工芸、食文化という順は、どうか、特に文化ではスーク・シラーハの歴史をドキュメンタリー等で訪問客に知ってもらい、その後工芸を楽しみ、最後に食事するということは、考えられないか。」という意見に対し、アラー氏から「3つのノードを提案したが、それは固定的なものではなく、それぞれのエリアに色々なアクティビティーを含むと理解して欲しい。建物の状況や土地の形状に合わせて多様な機能を持たせる必要がある。また、このプレゼンテーションをぜひ行政側に住民側からの同意や意見をいただいたということで報告したい。」と回答があった。住民側からのもう一つのお願として、交通計画、特にトゥクトゥクに関する規制はアラー氏のプランを実現していく上でも重要だとの指摘があった。

深見氏から「住民みんなにとって住みやすい街を作ること、歴史的に価値がある街に誇りをもって住めるようにしていくことが大切。そのために、旧市街カイロの歴史遺産や既存の建造物や道路は十分に利用できる。」というコメントは、参加者からの感謝を表する言葉からも、しっかり届いていることがうかがえた。サラ氏から「大学でも、取り壊すべき建物と保存すべき建物をどう扱うかは大切なテーマであり、常に議論をしている。建物が半壊していたら壊してしまった方が早いとして、新しいビルをたてる人もいる。自分として、それはいけないことだともう。実際、修復保存することによって、価値が増す事例に携わった。」とコメントがあるなど、完全でない古い建物をどのように扱っていくのかという点は今後とも大切なテーマになると思われる。

オンラインで入っている日本側専門家から「とても良い会であった。素晴らし提案であり、活発な意見交換がありとても良かったと思う。プレゼンテーションへの質問がいくつかあるが、時間の関係で紹介はできないが、質問があるということは、プレゼンテーションが素晴らしかったということである。特にアラー氏の多目的ゾーン、クラフトゾーン、美食のゾーンなどスーク・シラーハのエリアをゾーニングして計画している点、それに、環境改善、サービス活動、ボランティア活動といったプログラムを重ね合わせている点を評価したい。計画案を元に住民とディスカッションするというデザインレビューを繰り返すことが、良質な建築や街をつくる大切なプロセスであり、本日はそれが行われたわけで、今後とも続けてもらいたい。日本には住民参加のプロジェクト事例や仕組みがあるので、今後も紹介するなど協力をしたいと思っている。」とのコメントがなされた。



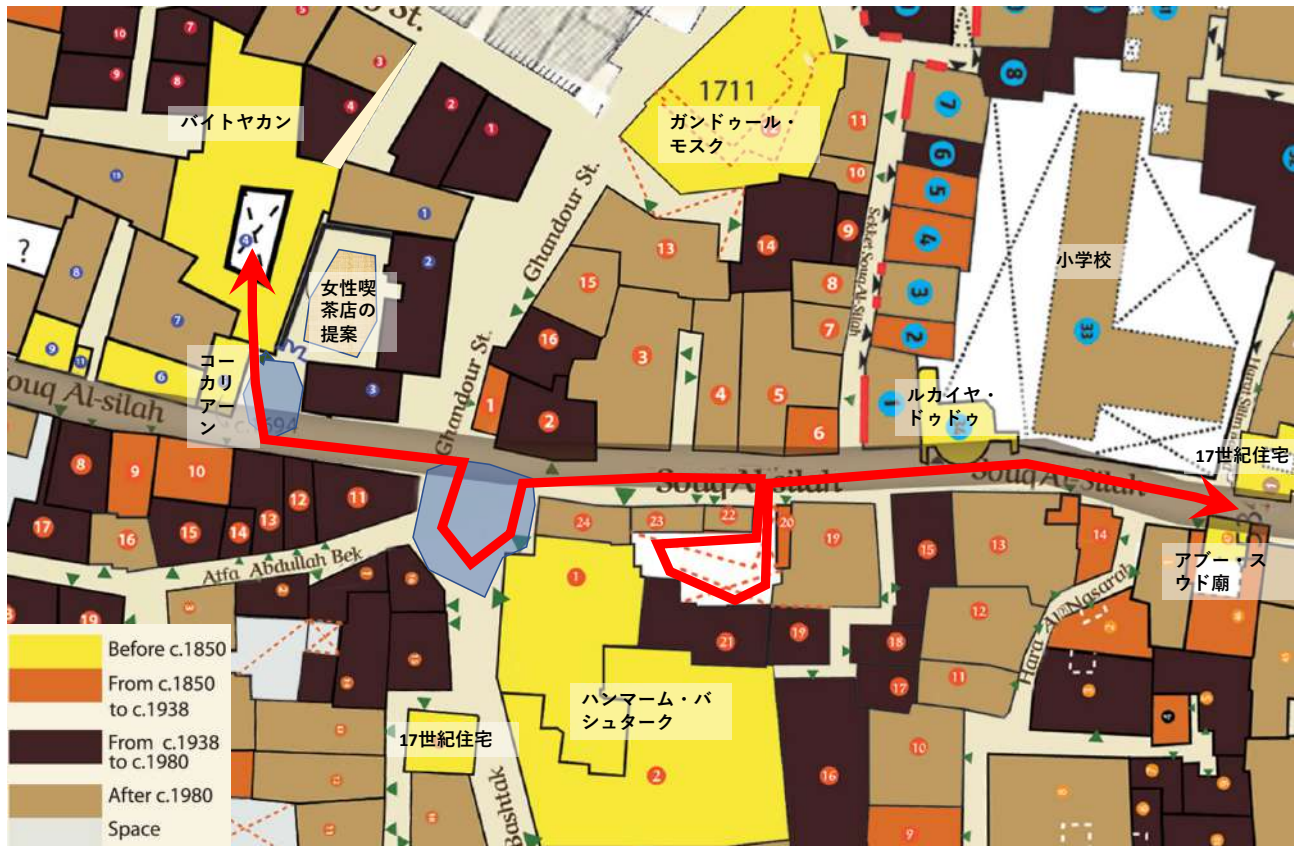
終了後における日本人専門家の話し合いでは、意見交換会を評価すると共に、今後の課題とアイデアについてのコメントを以下に示す。

- ・何か小さくても実現させるパイロットプランを作ることが大切、このことにより、人を巻き込むことができ、その良さと体験を共有すれば、次に繋がることになる。
- ・リノベーションには費用がかかる、その費用を集める活動や事業提案も必要である。
- ・広場などオープンスペースは費用も少なくともすむので、取り掛かりやすい。まずはどこかでやってみても良いのではないか。
- ・投資家やデベロッパーにアピールする動画を作り、資金集めをするのも良い。

⑦街歩き

現地での参加者は 35 名（住民男性 5 名、住民女性 12 名、ファシリテーター 6 名、講演者 2 名、日本人参加者 3 名、異なる地域からの参加者 7 名）であった。中には現地訪問まで参加しない人もいたが、総勢 30 名で、バイトヤカン周辺を見てまわった。

当初は、バイトヤカンから出発し、マンジャク宮殿まで南下し、向きを変えてスーク・シラーハを北上し、バーブ・ワジール通りと合流する地点から、バイトヤカンに引き返すというプランであったが、それぞれの場所で、意見交換をしながら進めることが重要と考え、まちあるきの距離を短縮した。



バイトヤカンを出発し、まずバイトヤカン前の、修復されたサビール・クッターブ・コーカリアーンを見学した。コーカリアーンとバイトヤカンに挟まれた空地は、現在伝統的喫茶店の客席として使われている。この空間から、現在閉ざされている鉄扉を開いて、先のアラー氏の女性用伝統的喫茶店へと繋がっていくことについては、賛成意見が多かった。また、せっかくサビール・クッターブが綺麗に修復された後も何の機能も持っていないことに対して、参加者からもったいないという意見が発せられた。また、サビール・クッターブの入口が奥まったところにあり、これをどのように利用するのかという実利的な疑問もあがった。現在は修復後で表面の彫刻を施された石やタイルが綺麗だけれど、これをどのように維持していけば良いのかという意見もでた。具体的なものに即して考えることによって、より身近な疑問点が浮かび出す一例であろう。

次に、ハンマーム・バシュタークの入口のところでの話し合いがもたれた。現在鉄柵で覆いが作られていることについて、綺麗な入口に悪戯ができなくて良いという意見と、鉄柵の中にゴミが捨てられており、かえって環境を汚してしまうのではないのかという双方の意見があった。ちなみに鉄柵の中の扉が開いており、参加者から誰が開けたのだろうと疑いの声が上がリ、観光考古省からのアムル氏が撮影するという一幕があった。2020 年までは鉄柵はなかったわけなので、今後、住民たちの決定としてもどちらかを選び、観光考古省と折衝する必要があるだろう。とはいえ、2 つの意見ともに正しい部分があると思

われる。ちなみに。観光考古省が登録した建造物は、全ての場合鉄柵で囲まれている。以前に住民のワークショップの男性の会で、若い人のモラルを高めていかねばならないという指摘を思い出した。

さらにハンマーム・バシュタークの南東側の空き地に入った。崩れた瓦礫の山には誰かが侵入した形跡があったので、先に扉が開いていたのは、そのためだったのかという納得の声が上がった。住民の中には崩壊のさまを初めて見た人もおり、その崩壊の酷さに驚きの声が発せられた。町は毎日の生活をする場となっはいるものの、誰もが細かな点まで見ているわけではない。歴史的建造物を保存・保全するためには、他者が指摘を行うことの大事さを感じた。すでに指摘したようにハンマームの西側の焚き口部分の上階には、貧困層が居住する悪環境があるけれど、もしかしたらこうしたことも普通に住っている人々は知らないのかもしれない。



その後、やはり近年綺麗に修復され、鉄柵の向こうになったルカイヤ・ドウドウの前に達した。2021年以前は革命後にタイルが盗まれるということで、巨大なコンクリートブロックで覆われていたので、以前に比べたら、その状況は向上している。とはいいいながら、やはり鉄柵の向こうには菓子袋などゴミが散らかっている。これほど美しい建築がありながら、誰もが中に入ったことはないと言う。背後の小学校を卒業した人もいて、建物には馴染みがあるものの、ルカイヤ・ドウドウが若くして亡くなり、彼女の母親がこのサビール・クッターブを寄進したこと、あるいは死者の街にある彼女の墓が近年地下水の上昇で倒壊したことを知っている人はいなかった。歴史への関心をひきだしていくことは、歴史都市の保全の第一歩なのかもしれない。

小学校の前は、ごみ収集場所となっており、決して綺麗とは言えない。しかしながらゴミ収集は生活のためには重要な側面で、今後の課題となる。現在は使われていない。アブー・スウド廟、空き家となった17世紀の住宅など、これらは修復の手が回っておらず、経年変化の後がそのままに残っていた。住民に再活用を考えてもらった建物と比べると、これらへの関心は薄く、みんなの意見が必要だという提案を行うことによって、人々の意見が引き出されることを理解した。

まちあるきの中で、自動車のすれ違い、トゥクトゥクの走行など、普段から感じていることではあるが、大人数で歩く場合の危険性を実感した。

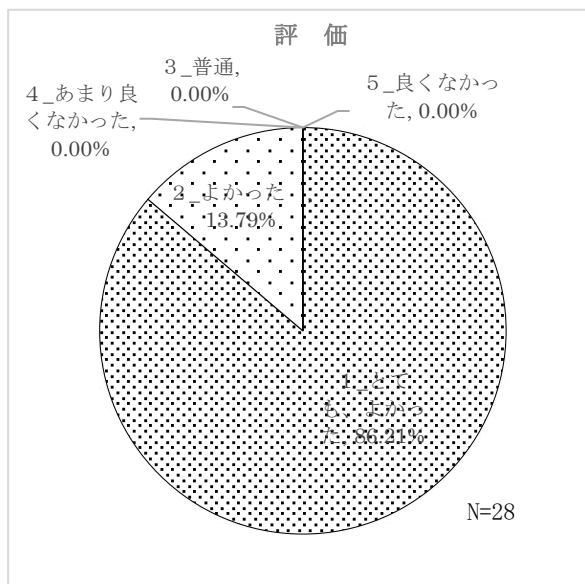
⑧アンケート結果

●属性：アンケートに記入していただいた方は 28 名、その属性は

- ・住民 ・俳優 ・新聞記者 ・まちづくり専門家 ・建築家 ・World Monuments Fund Proj
- ・まちづくり NP0 ・主婦 ・大学教員 ・研究者

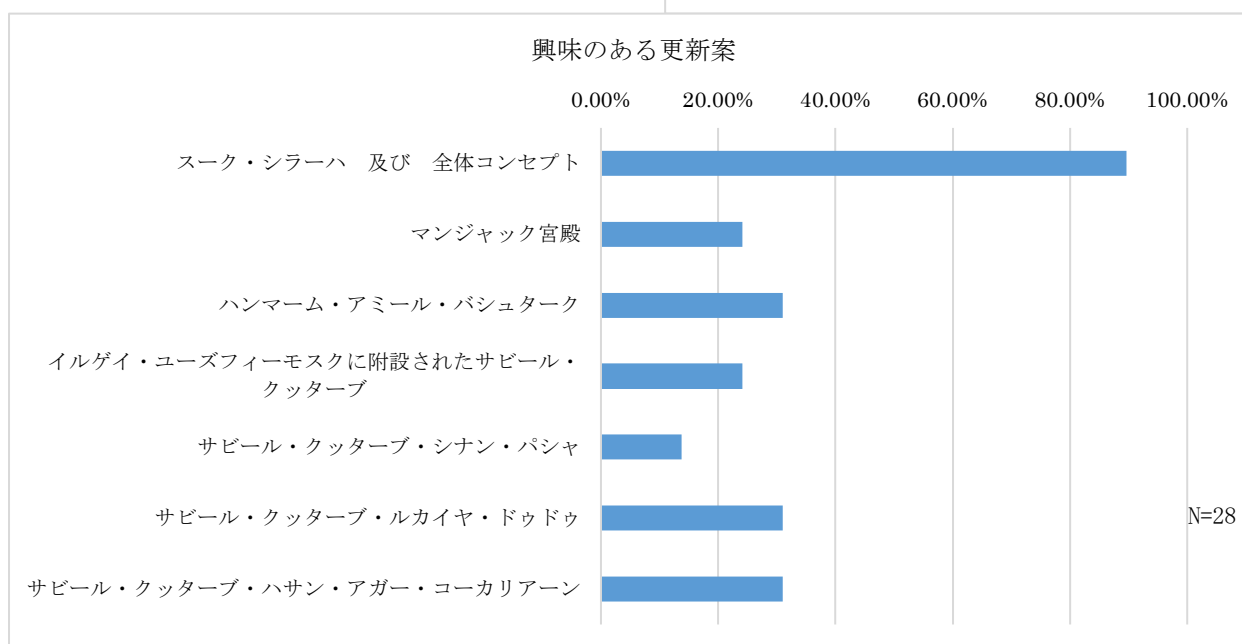
●更新案提案と意見交換の評価

86%が「とても良かった」と応え、残り全てが、「良かった」と応えており、「普通」「良くなかった」「あまり良くなかった」は0であり、満足度の高い内容であったと評価できる。



○興味のある更新提案について、

一番は「スーク・シラーハ及び全体コンセプト」で、他は、大きな違いはないが、「ハンマーム・アミール・バシュターク」「サビール・クッターブ・ルカイア・ドウドゥ」「サビール・クッターブ・ハサン・アガー・コーカリアー」が少し多いという結果である。



●意見・感想など（自由記述）

・「アラー氏のゾーニングの提案は説得力があった。収入を生むアイデア、住民が主体になる仕組みをリノベーションの中でどう取り入れるかがポイントと感じた。使いながらのリノベになるわけなので、まずは、小さなところから実現することが大切、それによって、住民に自信が生まれ、拡がりも期待できそう。オープンスペースからやり始めるのがよさそう。」

・「日本において歴史的町並みを残す場合の修理、修景、許可に相当する行為の概念があるか？建築の更新案のデザインが、地域に根ざしたデザインになっているか疑問を感じました。」

・「様々な提案が、スーク・シラーハに希求されている機能であることはわかりますが、彼らの生活圏内（周辺地域やさらに広い範囲で）における各機能の補完関係が見えていないので、それらの提案が自立可能であるかの検証が現地側で必要になるでしょう。次の段階として、カイロ全体の都市的視点からの検証が必要でしょう。」

・「今回も、前回も、地域の方々の真摯な活発な議論に感銘いたしました。この内容が、今回の議論対象エリアの多くの方々に共有されるといいですね。」

・「どんな小さくてもいいですから議論の成果として目に見える形になるといいですね。次につながることでしょう。」

・「同じような機能の提案があり、過度の重複が気になった。ブロックごとに特徴を持たせることが大切だと思う。」

・「住民ワークショップで出された意見や要望をふまえて提示されたスーク・シラーハ構想は、住民にとって衝撃的だったと思う。スーク・シラーハの歴史や文化、空間的な魅力を生かしながら地域課題の解決を試みるアグレッシブな提案だと思う。一方、これを実現する道筋を描くことは容易ではなく、今後の最大の難題といえる。

進行中のパイロットプロジェクトとして、また、スーク・シラーハの希望の光はバイトヤカンであることは間違いない。ここを拠点として、まずは周囲の公共空間（街路や広場、軒先空間）整備を、住民の手により少しずつ実現・波及させていくことも大切であると考え。例えば、緑化（壁面・軒先）やファサードの統一（庇・オーニング）などは比較的容易に実現することができるかもしれない。全体構想の実現に向けては、公共空間や歴史的建築物、コミュニティに対する意識が育まれていく速度に調和させることも重要と考える。」

・「住民の方々やアラーさんたちの提案を実際の事業にまで導く道筋がまだ見えません。こういうワークショップを重ねる必要を感じます。また、World Monument Fund のモスク修復事業がどういう受け皿で実施されたのかが、参考になると思う。」

・「将来の子供のために遺産を復活できれば幸いです。」

・「遺跡の修復に必要な資金 このプロジェクト成功するための第一歩だと思います。」

・「アール・エンパワーメント・コミュニティを将来的に再生するための包括的なマーカー計画を実施するための資金の提供が大切。」

・「住民の意見を大事に聞いてあげてください。住民の家を壊さないでください。どうしても 壊すなら同じような住める場所を作ってあげてください。」

・「色々な所を大事にして欲しいです。」

・「子供にコーランを覚えさせる場所を作ってもらいたいのは私の希望です。」

・「日本語を教えて欲しいです。日本文化センターでもバイトヤカンでも教えてもらえると助かります。」

・「遺跡のところには警備の人など見持ってくれる人がいて欲しいです。遺跡の毎日の情報、周りの建物の情報（周りに倒れるような建物の情報）よく見て、報告することが必要です。Gamalia のように光を付けてもらいたいです。 電気がつくと遺跡の綺麗さを住民が感じます。」

・「活発な意見交換があり、NGO 及び政府からの参加者、男性、女性のバランスもよく、大変有益な会議でした。スーク・シラーハの歴史地区興味に聞きしてはかなりしっかりしたグラント。プランがあることが分かりました。是非、日本とエジプトとの協力事業が行われることを願っています。」